新女界

第四卷第十號目次

○崇高なる乃木大將の人格を追慕す……安井哲子
△利根の秋（一）……野口せい子
○御大葬奉送記（一〇）……辻村靖子
○わが自覺の時
△凡そ三階段を經たり（五）……矢島揖子
△青年時代の追懷（一九）……安井哲子
△身の棘は愛の鞭（二三）……宮川壽美子
△全くわれに克ちし時（二七）……山室機惠子
○精神界の新紀元（三二）……法學博士 浮田和民
○外人の誤解とは何ぞ（三七）……農學博士 法學博士 新渡戸稻造
△山上の垂訓（三九）……三井芳太郎
△遠藤千浪さん（四二）……有田四郎
○兒童の體質と品性（四七）……小平國雄
○衣服の趣味（五一）……海老名みや子
△安價の滋養品（五六）……手塚かね子
○幻覺（五九）……久野恭子
○隨感（六六）
△九月十八日の日記（笠間しのぶ）△近きに求めむ（茅野雅子）
△寄宿舍の日曜の夕（内田文子）
△時事其折々（七〇）……記者
△編者より（七二）……三四子
○靈活の信（五）……海老名彈正

東京新人社發行

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

千代田香油

美しき
お髪を
お望の方は
香のいゝ
千代田をお召し遊ばせ
さつぱりとして
奥床かしく
人樣にまで
快感を與へます

定價
七十錢
卅五錢
廿五錢
十七錢

スワン石鹸
輸入元
山岸三之助
東京……馬喰町
大坂……鹽町

牧羊者カード

●縦三寸二分 横二寸三分
●十枚取合五十枚入壹包二十五錢郵税二錢

全國日曜學校大會紀念として發賣せる日曜學校用新式カードにして幼年科及高等科の男女生徒達の意向に適する樣彩色體裁等に充分なる注意を加へ五十枚共各異なりたる聖句を刷込みたる高尚優美の品なれば御注文の上續々御試用あらん事を冀ふ

發賣元
東京小石川區武島町二十五
便宜堂商店
振替貯金東京六三三〇番

特約販賣店
○東京銀座敎文館●東京尾張町警醒社書店●東京有樂町基督敎書類會社●東京神田小川町普光社○大坂北久寶寺福音社書店

便宜堂商店目錄 御入用の方へ二錢切手又往復はがきにて申越あれば進呈致候

十月一日理想的雜誌生る

國民倶樂部

▲嗚呼乃木大將夫妻　三宅博士　大隈伯爵　三浦將軍　其他

●如何なる幸福を求むべき乎……江原素六

●如何なるをか愛國者と言ふ……島田三郎

●實業家は平和の愛好者……澁澤男爵

●乃木將軍と偉大なりし母堂……尾立維孝

●友人の失敗より得たる教訓……記者

●好き嫌いのなき我が生活……某夫人

國民隨感

▲國民倶樂部生る
▲新らしき時代と新人物
▲今は國民奮起の時
▲乃木大將に何を學ぶ乎
▲悲むよりも働かん
▲如何に服喪し居るか

●東京者の東京見物

●金魚の樣な貴族

●若き婦人の男子觀

●御大葬餘聞

●名士の私信いろく

△長井博士△三輪田女史△青柳有美△宮川經輝△矢島女史△菊池幽芳

●感心な先輩と後進

●美はしくも傷ましの戀

●偉大なる青年國民

●青鞜社の姐さんへ

▲安部磯雄君……▲島田三郎君……

▲雄辯の人

▲德富健次郎君……▲井深花子夫人……

▲一冊金十一錢　六冊金六十五錢　十二冊金一圓二十錢

▲國民出版社　東京神田區表猿樂町二

▲振替貯金口座東京第二三一六四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり

利根の秋

野口せい子

雲染めて夕陽の黄金にかがやけば水も錦を
のぶる大利根

うらさびし秋風來たり蓑蟲の夢をも吹きぬ
高き梢に

夕されば露芝しきて君が庭に赤城山よりい
づる月の見まほし

ほつれ毛のかすかに動くそれも見ゆ遠人思
ふ初秋の朝

蟲籠を蚊帳に抱きて兒はねむる音には鳴き
そね夢のやぶれん

社説

崇高なる乃木大將の人格を追慕す

安井哲子

十三日の夜畏くも靈轜を宮城前に奉送して無限の悲痛に打沈める翌日、吾々は再意外の悲報に接しました。乃木大將及夫人の突然自殺せられた事であります。

「嗚呼惜しい事をせられた」とは、親しきと否らざるとを問はず、恐く誰にでも起つた感でありませう。吾々は不幸にして大將から彼偉大なる感化を直接に受け得る境遇に居りませんでしたけれども、其皇室に捧げられたる極度の忠節と、部下に與へられたる無限の慈愛とは世の噂に漏れ承つて、常に其崇高なる人格を敬慕致して居つたのであります。

人格の美は實に至誠に依つて表はるゝ者で、忠といひ孝といひ、其他總ての德行が誠心より發せぬ者は皆僞善であります。誠意なき者は唯忠孝を口にし形に表はすのみで、其平素生活の狀態は全く情慾の奴隷であります。私は今日まで種々の境遇に於て種々の人々に接し、表裏相反する此種の生活を目擊致しました時に人知れず歎聲を發した事も少くはありませんでした。然るに日本古武士の典型として世に嘆美せらるゝ大將が、誠意誠心一命を捧げて其信ずる所を行はれ、位高く職重くなるに從つて、益其義務を感せらるゝ事切に、而も優しき心情を以て常に其周圍に對せられた事を承りましては、どうして敬慕せずに居られませうか。賢明なる　先帝陛下が大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

將を學習院長に命せられましたのは實に深き思召のあらせられし御事と恐察し奉る次第であります。

忘れもせぬ數年の昔、不德淺學なる此身が誤つて學習院女學部の講師を囑託せられ、只管恐懼の念に充たされて居りました或朝、突然院長の御召に接しました。日頃敬慕措く能はざりし高潔なる人格の前に立たねばならぬかと思つた刹那の感は實に何とも申せませんでした。そして其嚴格なる而も一種の優しみを含んだ簡單なる訓誡を受けました時には又實に無量の感に打たれざるを得ませんでした。

私は此小さい心相當に國を思ふの切なる情を有つて居る者と常に自信して居りました。而も忠君愛國の至情は最深く最廣き意味に於て、斷えず日常の平凡なる生活に現はるべき者であると信じて居りました。之れを爲さんが爲めに私は沈思默考の結果、終に一の信仰を有つ樣になつたのであります。之れが又大將の崇高至誠なる人格と、質朴眞面目なる生活とを常に尊敬して居つた所以であります。不幸にして信仰を有する者の國家に對する眞情は大將に了解せらるゝ事を得ませんでしたが、併ながら之れに依つて信者たる私が大將を尊敬するの念に何等の變化をも來たしませんのみならず、大將の如く一生を通じて最美くしい生活を爲し遂げたい者と決心した次第であります。

かゝる高潔熱誠なる夫の傍に在つて多年受けられた夫人の感化は又實に偉大であつたでありませう。吾國の婦人が日に月に奢侈虛榮の風に流れ來る今日身は伯爵夫人として、又名聲世界に赫々たる大將の令室として、能く其夫と共に質素眞面目なる生活を持續せられ、上を敬ひ下を慈しみ終始一貫夫の心を以て心とせられたる美くしさは、實に吾々婦人の摸範として尊ぶべき所であります。

大將と其令室との死に就ては世間種々の説をなす者がありますけれども、吾等の如き小さい者は到底かゝる偉大なる人格を充分に了解する事は出來ません。唯大將が社會に與へられたる强烈なる影響の一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

部を受けて、總み來つた心を引き締め、最眞面目な生活に入りたいと切望するのみであります。世を擧げて名利のために節操を忘れ、自利の爲めに責任や義務を省みない今日、利を見る事恰も土芥の如く、最嚴格に其責任を盡し、先帝の殊遇に感激して其一身を捧げ盡したる將軍の精神は、實に永久不滅にして常に吾等を指導訓誡せらるゝであらうと信ずるのであります。

　翻つて吾々は信者としての自身を反省致します時には實に耻かしさに堪へぬ感があります。苟も神の眞善眞美に觸れた者は一種崇高なる心情の發現がなければならぬ筈でありますのに、吾々の常に俗脫けのせぬのは如何なる故でありませうか。蓋平素の修養に缺くる所があるためでありませう。恰も私が初めて大將の前に立つて一種偉大なる氣に打たれたるが如く、常に信仰深き生活をなす者は、他人をして少くとも懷しく慕はしげなる感を起さしむる感者を有たねばならぬと思ひます。此に至つて私は大將が自ら爲すべしと信じられたる者に對して不言實行の態度を一貫せられた勇氣と、君の御爲めに全く我を捧げ盡したる熱情とに驚嘆せざるを得ぬのであります。之れが即大將の心情をしてかくも純潔ならしめた所以でありまして、吾々の此處に學んで奮起せざるべからざる所であると信じます。

　大將の突然なる薨去と令室の逝去とは、獨吾國民に劇烈なる感動を與へたのみでなく、廣く世界を驚かした出來事でありまして、國と人とに依つて種々感想を異にするでありませうけれども、大將の崇高純潔なる人格を嘆美せざる者は殆ないやうであります。吾々は茲に大將と其夫人との悲慘なる最後を考ふる事を欲しません、併ながら此意外なる出來事に依つて吾々に與へられたる銳い刺戟を永遠に印象して、其高潔なる心情に觸れん事を希ふ者であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

靈活の信

海老名彈正

△人生に對する二つの態度

水の變化して甘き葡萄酒になつた記事は、基督教が最も快活なる宗教であることを説明する一種の比喩と見てよからう。洗禮者のヨハネが基督と其弟子との喜しき交りを形容して、新郎と新婦との關係といひ、自からその媒介の任務を取るものとして居るが、基督の福音は樂しく又快活に、喜び勇んで傳へられた。基督に洗禮を施したヨハネは荒野の人、寂莫の人である「我れ胸うてども爾曹泣かず」とある如く、彼は恰も葬式の喪主の如く、食はず、飲まず、斷食の苦行を旨とした、其の悲しい態度に比し、イエスの態度は正しく樂しい婚筵の有樣である。同じく神を信じ神に倚り頼む人にして、斯く葬式と婚筵との相違あるのは何故であらうか。之れは其精神狀態が違つて居るからである。ヨハネは罪惡と苦戰惡鬪し自分の心中に深く潜める罪惡を認めて、斷食の修養を積んだのである。彼は人々との交際にたへかね、獨り荒野に入つてその罪と戰つてをつた。之れは愉快な生活ではない。

△神喜び給ふといふ自覺

人生の生活には此の二つの方面がある、一は宇宙の根底を愛と見、他は人生の苦痛を感ずるのである、

明日ありと思ふ心の仇櫻
夜半に嵐の吹かぬものかは

爛熳たる花にも悲哀あり況んや秋風落寞たる野は如何に悲しいか分らぬ。少年の馨ばしき姿も忽ち變じて墓なき白骨となるを思へば、衰へた老人に對して如何、實に堪へ難いものがある。更に深く人心の奥底にわけ入れば、そこには亦恐ろしいものがある。卽ち罪惡である。之を自覺した時は眞に堪へられぬ思をする。何となれば無常の感は苦痛には相違ないが、罪の自覺は人心の最大苦痛である、罪の自覺は人心唯一の據り所なる神から離れるのである。神より卻けられ、自からも亦離れんとする狀態である。之は無常の感よりも更に／＼辛らい、人生の苦痛は外部にあらずして深く內部に隱れ居るが故に、極めて避け難いので、自暴自棄に陷るも亦巳むを得ない。何の慰安も平和もない。ヨハネはどうしたらこの境涯を免れる事が出來るかと苦しんだ。所が基督の心情になれば其根底に立入つて見ても罪惡の羈絆に縛られる所ろがない。晴れ渡りてすが／＼しい彼の淸き心に見ゆる神は彼を咎め罰する怒の神ではない。

ヨハネを閉ざせる黑雲は、之を破るに苦い經驗を要した。基督には天開け、何の遮るものなく、淸朗なる高い天であつた。又彼の耳に響く聲は罪を責むる恐ろしい聲でなく、彼をめで愛する所の聲であつた。神の愛には變りはないが、放蕩息子では神の喜悅は分らない。親を泣しむる子の心底と親の心を喜ばしむる子の心底とには雲泥の懸隔がある、神は凡ての人を愛し給ふも、眞に神の喜び給ふものは多くない。ヨハネと雖も神に喜ばれるとの感は持ち得なかつた然るに基督は神の喜悅を自覺し給ふた。基督の心事は風霜に惱まされし花でなく、春風駘蕩の間に咲いた花である、基督が天を仰いで父よと祈り給ふた時、まのあたり見奉りたる神は、此尊い心情の返照と見てもよい、こゝに靈活の信が存する。

△ヨハネとパウロの靈活

之に反しヨハネは自然に對する樂みと云ふものがなかつた。彼は好んで野に往つたが、彼の眼中に映

ずるもの唯だ荒涼たる冬枯の野で、花も咲かず鳥も啼かなかつた。然るに基督の傳道せしガリラヤは花鳥風月、美を盡した自然であつた。空の鳥、野の百合花の讃美は彼が自然の風物に對する美はしい心情の表はれである。基督がこの美はしい心情を以て人生萬事を見給ふ時何もかも活躍して來たのである。基督の一生には悲劇がないではない、否萬古を絶する大悲劇があつた。彼れの悲劇はこの美はしき內觀と對照して更にその悲劇を加へた。しかも彼は希望の樂觀を懷いてこの悲劇を通り給ふた。換言すれば彼の心には萬事を征服して清く[illegible]くするの力が宿つて居つた。こゝはパウロに比して超ゆべからざる籬があるやうに思はる。パウロは、我れ願ふ所の善は之を行はず、却つて願はざる所の惡は之を行へり。……噫我れなやめる人なる哉と煩悶してをる。之れが聖人賢哲の經驗である。基督には斯る歎聲は見出すことは出來ない。パウロもヨハネと同じく內界に於ける罪惡との戰ひに忙はしくして、天地自然を樂む暇がなかつた。彼が幾度となく往復したる地中海の風光の如き世にも稀れなる絶景であるが彼の書翰の中に一度も之に言及した所はない。惟ふにパウロの眼中には山水なく自然なく唯だ人あるのみであつたらう。しかしてその人も罪惡に滿つるものが多かつたらう。基督も罪惡と戰ひ給はなかつたではないが、彼が夙に之に打克ち戰勝者として遙かに罪惡の上に超越して居られた。パウロも基督に由つて救はれたる後には深く靈活の信仰に入るを得た。彼れが自然を歌つたものはないが、よく人生の悦樂を歌ひ信仰、歡喜、希望及愛を歌ひて、人生の活ける事實に深き興味と同情とを示した。彼は基督の信仰を握つた時、最早我れ活けるにあらず、基督我にありて活ける也と云つてをる。茲に於て雖の歎聲を發したる彼は死して、靈活の基督がその中に入り給ふたのである。

△生きんが爲めに死あり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人生は基督に取づて無常の世界に閉ぢ籠められて居らなかつた。エルサレムや、カイザリヤ、ピリポの榮華も及ばないと一莖の野百合花を嘆賞し給ふた。基督は永遠の春を理想して居られたのであらう。宗教の中に深く分け入れば、生命は愈々増し來つて、死は終になくなつて仕舞ふ。宜なり、神は永刧に活ける神にして無限の神なることや。此無限の神を信ずる人には死は寧ろ陰にして生こそは常である。基督には花の衰へるよりも寧ろ蕾の方が見えた。花瓣の色褪せうつろいつゝある彼方に生々たる果實が見えた。生きし生けるもの皆死ぬる爲めに活くるにあらずして、活くるが爲に死ぬるのであると見えた朽ちず汚れず衰へざる嗣業は宇宙の裡面に存する。歴世悲觀の眼には死は終局であると見るであらう。基督にとりては死は生に到るの道程である、死の彼方には更に大なる高き生があると觀じ給ふた。然り深い宗教的實驗ある人には死は決して終局の祭壇ではない。却つて永生に入るの門である。日本人は古來死を以て凡ての終りと思惟した。死にさへすれば何もかも濟む、根消しになると考へた。之れ實に淺薄なる人生觀である。生の終は死にあらずして、死の終りこそ生である。神は一人の罪人の死をだに惜しみ給ふ、況して義人の死をや。生は神の聖旨である。神は我等人類が元氣よく活動の生を營むを見て喜び給ふも、失望し、落膽し、消沈し、遂に死せんとする者を見ては斷じて喜び給はない。天地の眞相は實に生命である。約翰書の冐頭に「元始より在りし生命の道」とある、この道は又「生は人の光なり」とある、卽ち神である。然り生命は人の光である、死は陰である、暗黑である、唯生ある所に光がある。斯の生命を信じて生活するが卽ち基督の信仰生活である、基督の宗教である。

△靈ある所に自由あり

果して然らば無限の生命は如何にして贏ち得らるべきか。生活そのものを豐富ならしめ、快活ならし

むることである。死によりて凡てを償ふと思ふが如きは淺薄の至りである。凡ての負債は唯生のみ之を償ふを得る。人もし社會に對して申譯のために自殺したりとせよ、殘るものは涙と悲しみとのみ。之に引かへて全く悔ひ改め善に遷り如何なる苦痛をも忍耐し、如何なる侮辱をも堪へ忍び、毅然として健闘するならば、親戚知己皆之を喜び、前途を祝するのである、此喜びこそは眞の喜悦である。死は悲み生は悦び、誰れか之を疑はん。神は何處までも我々の罪過を赦し給ふ。是れ我々の生を欲して死を欲し給はぬからである、此の宗教的の意識に入れば我々の天地觀は忽ち一變する。これ彼のパウロがア、我惱める人なる哉と叫んだ苦境より解脱して、神の榮光を見て喜び、否患難にも喜ぶといつて居る。此境涯に到達すれば基督と同じく、我々も森羅萬象の理に美を見、喜びを見、生を見ることが出來る。そこに活躍があり自由がある。靈のある所に自由あり、とは之をいふのである。我等が此の深い信仰に入るを得たのは幸福中の幸福である。吾等の祖先は苦しみ歎き、天地の無常を感じて淋しい宗教の一面を握つた。彼等は實に天地人生を離れ、人間世界を離れて辛うじて天國の門前まで達した。唯に人生を離隔したるのみならず、自分の身その物、自分の心その物を儚んだのである。

然るに我等は基督を信ずることに依て、此自由の天地に入り罪に打勝つの靈能を自覺し、神を天父と仰ぐ事が出來る。我等は自然界にも神の靈能が働いて居ることを認むる。悲哀の裡面に悦樂あり。無常の本體は常住あり、死の彼岸に生の國を認むる。之を地上に持ち來るが吾々の生活である、地上の生活は此靈活の信に由て養はる、斯くて我等の生活は深い意義あるものとなる。

神は靈なれば之を拜するものも靈と誠を以てす拜べし

御大葬奉送記

辻村靖子

四十五年を限りにて、明治の年號、こゝに絶ゆべしとは、ちはやふる神もしろし召さずやありけむ。さゞれ石の苔の蒸すまで千代萬代と思ひたのみまゐらしゝわがすめらきに、ゆくりなくすてられまつるべしとは、うつしよの人の夢にだに思ひかけきや。天に號び地に哭きしその七月の三十日を距る、四十六日、今日大正元年九月十三日をもて大み身は殯の宮をいでさせたまひて、大御葬のことは行はれむとす。

み奉りおくる者帝國大學第一高等學校早稲田慶應女子高等師範各種專門學校の學生生徒女生徒、宮城前の廣き芝生に列みゐて大みおくり仕うまつる。我女子英學塾の職員生徒も其後にあり。遠里小野の露よりも滋く天つみ空の星よりも多き是等人人の齊列し終れるは、其日午後四時すぐる頃にやあるらむ。御柩のいでさせたまふに先だつこと約四時間なるべし。大城の松も御湟の波もみしいにしへに變らぬを大君の今はおはしまさぬぞかなしき。

白木綿かけし大眞榊の林と樹ち、短檠やうの大篝火の遠くまで建て設けられ、高く掲げし白熱燈張りわたられし黒白鈍色の旌旗み奉るも忌々しく夢のここちする。

人の心ばかり靜けさにえたへぬ者はあらじ、この周圍の光景をみ奉りてうち沈みつるしばらくこそあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

れ、やがて彼是手とり合ひてひそめきて物語もしいつめりことはりや。夏の二月相會はざりし師弟の情朋友の睦ましさのやるかたなきを思へばいさゝかは咎ゆるしつべし。この多くの時を直立しつゞけむは疲勞少かるまじければとて、つゝましながら各自思ひ思ひの行動をとる、逍遙するあり跪座するあり。

我友河井道子ぬしは遙けき彼方の小松の下に草おりしきて座をかまへ、小やかなる洋書とりいでゝ、三昧に入りて讀み耽らるゝ、羨しければわれも物眞似に外套

しきて側にゐよりて忍びて懷紙とりゐでゝ、古への輓歌をたゞ思いづるまゝ三つ二つかいつく、竹葦と並ひ立ちし人を遠のきて五尺の體軀を屈むればまたく閑室の内に靜慮するこゝちして、物と我とは須臾は忘れたる様なりしが、かくてもえあられねばやをら立上りてみる四面の物象倏忽として時のまに變りぬるよ、日は入りぬ、風は寒し。大内山ふりさけみれば松のうれに今か入り日のかけのさやけさ。眩かむばかりの晶けさはこれやわが明治天皇陛

下の御鴻德にも似たる哉幾千萬燭の電燈高さ百尺の白弧燈短檠形の大篝火この時に點火せられぬ。

秋の夜霽れて星の光稀に金鈎のごとき三日月は今ぞ名殘の光を放ち蟲の聲なき草叢に零露圓にまろびあひて、この夕風の寒けさは、人の肌膚に砭しつべし。我校の生徒の內、或は外套の用意なきもあらむ、今だにゐるをいかにしてか、猶四五時間あるこの秋の夜寒を凌がすべきと心うし。いとせめて、一つ所におし凝りて、親しきは一つ衣を二人して被て相抱きて暖さをとるもありしやうなり。

七時になりぬ十二日の朝より這ふ蟲も立入るを許さぬ二重橋の畔より馬場先門まで坦砥のごとき御

道筋大篝火結ぼほれ燃ゆるが下に宮內省の下づかさにやあらむ、竹箒執りて玉しける砂の上をいやが上に清む、御發軔の刻に近づけば漸く人のけはひしげくなり、奉送の人々のいろめきたつは、我皇海陸軍百萬の貔貅が君のよみぢの大行幸を守護り奉ると堵列する者なりけり。我が立つ御奉葬の場所は先着しつる某女學校の人々のわりなく領しはてにければ強いて爭はんも人ぎゝ惡くのきて後列になりにけり。近くゐよれば丈高き黒髪緣廣き帽子の間より窺ふなり、遠のけば距りいやが上にます。かくては盛儀の一つだに全くは拜み奉らせむこと難くやあらむ。やがて時計は八時近くなりぬ。耳朶を貫く

弔砲の宮城の方にあたりて聞えし、今や天皇の御霊轜の御車寄を離れさせおはしますなめり。さすがに賑はしかりし五萬の學生たゞ爾時と聲を呑みぬ、紫白の白弧燈、紅の大焚火夜色漸く沈み行くにつれて、冷光人を襲ふやうなるに、御前驅の騎馬粛々として行き殷たる弔砲遠く轟きわたると共に、いづこにかあらむ咽ぶが如く悲泣くが如き奏樂のきこゆるは、これや近衛軍樂隊の吹奏すと云ふ哀の極の曲にやあるらし。續いて太皷の音鞺としてきこえ、切々たる笙篳篥の音の孤雲の上遥にきこえて、鬼火に似たる松明の一つ二つ三つ四つ五つ石壁はなれて、二重橋に顯はれたる。やがてま近く進行し來れるは儀仗兵にやあらむ。大喪使にやおはすべき彼は卷纓の踏陵頭か之は布袗の仕人か御胡簶捧ぐるも御楯を持たるも宛然黄泉の國に行くらむ人を妻櫛の一つ火を燭してみる心地す。たゞ著じかりしは木綿つけし根ごしの眞榊及日月の大幢幡ぞかし。幣櫃みえず輿床もわかず稀に御樂師の袍の袖を昇かせつる鉦鼓の側面をぞ認めつる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あはや素絹を以て額となく腹となく飾りし牛の黒く白きが蹄も坤軸に減り入れむばかり力足ふみしめつゝ歩みくるは。早くも御靈轜のわたらせおはしますよ。栗色の黄金をつゝられし御簾の搖ぎ、鈍色の衣やつけたらむ黒き人影の御車の側にひしと副ひたてる五七十人斗り御轅もみえず御轂も拜めず。指揮する人の忍びやかに最敬禮の注意すれど誰か一人俯きたる者のある、生ける世の限は更にもあらず、千億劫の年經とも復再びは會ひ奉ること難きわが大みをやのはてのいでましの御儀をいとせめて双の眸に刻みつくるまでよくとゞめ置きて、後の世までの大みかたみとし奉らましと千行の涙かきはらひつゝ、之をかおくりと見奉りおくる。

淺茅原夜置く露にぬれぬれて大みひつぎをみおくりまつる。

五萬の學生七千萬の蒼生草抑この刹那の大哀を何のことばもて表はすべき、天地も心ありてか星の光うすれ、草木も思あればかいろかはりたる。御車の重量六百貫ときゝしをたゞこの神牛の金剛力もて曳き奉るに たとへは輕きこと毛の如くて、早く已に御靈轜は斜になりたまひぬ。あはれ。

御車過させたまひて後はむらぎもの心喪ひつる人の如く役立つべき力も失せて、後へに扈從したまへる御名代の宮の御姿も親任官勅任官貴衆兩院議員の禮服禮帽綺麗びやかに錦ひきはえへし如くなるも、列國より差はされたる儀仗兵の歩武堂々たる嚴めしさも更に目をとゞめてみん心地もせず。

仰げば星斗爛として秋の風徒らに旌旗を搖かしたゞマクネシヤの閃々として間なく虚空に煉めくのみ解散しつるは午後十一時みちすがら思ひつゞけゝる

この秋は君ましまさぬ大にはに
にほふかあはれしらきくのはな

諒闇の秋と云ふことを

近藤ふち子

千早ふるかみのいかきも秋こえて
もみちちりかふかみなみの森

ーわが自覺の時ー

（一）凡そ三階段を經たり

矢島揖子

△失敗我が心を醒す

私は性來が解る迄は動かぬといふ性質なので、觀察力は割合に持つて居つたが、無器用で何にも氣の利いた事は出來なかつたのです。丁度十二の時でありましたらう、緣付いた一番上の姉が、お產をするといふので里に歸つて居り、男の子が生れ、兩親始め一家は安心し、喜ぶ暇もなく、姉の肥立ちが惡くて、百日經つても家に歸れず、赤兒は家の者が保護しなければならないので、私の直ぐの姉（後の横井小楠の配）などは、大層器用な質とて、上手に取扱う、私はまた赤兒の寐入つた時が好きで、成る可くその時斗り守りをする、それは守りをしながら書物が讀めるからで、父の本箱から軍書や小說を出して大分讀んだ、軍書は父の爲めに讀む事を仰せつかるので、外の時でも讀めるが、小說は守りをしながらでも讀まなければ暇がないと思つて、夢中になつて終には守りなぞそつちのけになつて終つた。さあ大事な子供が病氣になりさうだと云ふので、母に大變叱られた、母に叱られたのはこの時が始めてゞ、その怒つた顏を見ては、魂も消え入るやうに覺えて、その時子供心にもつく〴〵好きな事に夢中になつて、大事の務めを疎かにすまいと強い決心をし、私かに

さきたゝぬ悔いの八十度悲しきは
流るゝ水の返へり來ぬなり

といふ古歌を書いて、自分が生れると直ぐ父母が與へた短刀と、氏神様のお守りと一緒にその歌を書いたものを肌にかけて、始終身を離さなかつたのであります。

△愛の教へを慕ふ

その後私の身にはいろ〳〵の變遷が起り、明治七八年の頃は築地四十二番の女學校に教鞭を執つて居りました。すると明治十年頃熊本の實家に或る困難が起つて今歸れといふ電報がかゝつて來たので、早速一と月の休みを乞ひ請けて歸國の旅につかうとすると、かね〳〵宗教心を私に吹き込んで下すつたミセス、ツルーといふ私の學校の校長が心配して、今度この節と思つて、今のやうに新約聖書はない頃故、馬太傳、馬可傳といふやうに、一冊宛バラ〳〵になつて居る小形の聖書を、舟中で讀むやうにと云つて贈り、且つ私を部屋に招いて誠に親切な祈りをしてくれました。私はその祈りを聞き、他國人で居ながら我々の人情がどうしてこんなによく解るのであらうかと、非常に感心して、もはや偶像を拜むのではない、家の爲め、親戚の爲め、身の爲めを思ふにしても、今迄の考へではいけぬ、偶像を離れて愛の教へである基督教に心より從はうと決心し、愈々故鄕に旅立たうとする朝、汐止橋から今迄肌に付けて居つたお守りを川に流して終ひました、勿論かの歌の紙切れもその中に入れた儘でありました。これは第二の自覺の初めに、第一の自覺を捨てたと申すかたであります。それでもまだ洗禮を受けやうと迄には思つて居りませんでした。

△受洗眞の自覺を與ふ

扨久し振りで故鄕に歸つて、家の人や親戚の者と一緒に額を集めて、いろ〳〵會議をし始めました、然し宗教心のちつともない人のゴタスタする事は、實に馬鹿らしい極みであるとつく〴〵感じ、自分もこんな人々の仲間にあつて、一生を送るのは實に無

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

意義な話である、歸つたら早速洗禮を受けやうとつく〴〵思ひました。程なく家の用事も片がつき歸京して見るとまた心が緩み、一年經ち、二年經ちしてなは洗禮を斷行しない、丁度明治十三年のコレラが非常に流行した夏のこと、私と日曜毎に一緒に教會に參つた友達が病氣にかゝりました。この人は幼稚園の保姆をして居るので、私の子供の四郎といふのをその幼稚園に賴んで置いた、すると或日子供が幼稚園に行つたかと思ふと直ぐ戻つて來て、先生がコレラにかゝつて幼稚園はお休みだといふ。私は非常に驚いた、稽古を濟ますや否や見舞に行つて見ると下痢をしたのが、時節柄類似コレラにされたので、もう大分よろしいとの事であつた。それから私は病床の側であなたがコレラにかゝつて萬一その儘でお眠りになつたら實に殘念であると思つた。またこの節の事であるから、私も何時コレラにかゝるまいとも限られない、二人共こゝ迄來て神の救ひに入らないで眠るのは口惜しい事である、御全快の後は二人で早速洗禮を受けやうではありませんかと云ふと、その婦人も非常に喜んで、二人はいろ〳〵身の上話しを始めた、この婦人の主人と云ふのが、病氣で築地の病院で眠られる前に、自分は基督教を信ずるが、お前には强ひて勸めはしない、然しこの教へを信ずる者は死といふ一大事に遭遇しても、狼狽せずに濟む。そして人間に大層落付きが出來るから、どうか私の歿後も日曜毎には教會に行くやうにと云はれたといふ、それが動機で教會に行き次第に救ひの道も分つた昨今、もしコレラで死んだら悔い改める暇はなかつたらうにと、全快と共に受洗の決心をした。そこで二人は生れ年を書き、タムソン師に受洗の志願を出す事とした、然し自分は兼ねて導いてくれたミセス、ツルーにこの事を話さうとて、その部屋に行つてかく〴〵と告げるさ、ミセス、ツルーはほんとうに言葉より先きに淚が出て、それは有難い事だ、神樣のお導きである。早速タムソンさんにお話して下さいと云はれるので「おツルさん、あなたは私達

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の洗禮を受ける事がそんなに善い事なら、なぜもつと早く勸めては下さらなかつたのですか」と云ふと「聖書を讀み、日曜を守る人は、神樣のお導きが必ずある、人が勸めると或は機を誤る事があるかも知れないので、只祈りを以て今日を待つて居つた」と申されて、私は今更らその深い情けを感謝いたしました。次でタムソン師にこの事を語ると同じく涙を流して喜び、日曜毎に主の祈りを敎へてやらうといふ事で、五度位かゝてこれを習つたが、師の赤兒の樣な日本の言葉が、不思議にもよく解つた。それから受洗の試驗も無事に濟んで、水を注いでもらつたその時は、心から安神して重荷を卸した樣に、只感涙に咽ぶのみでありました、この時から心は新らしくなり、感謝の生涯に入り、敎會はホームの樣に感ずる樣になりました、私の眞の自覺はこの時に始まつたと申さなければなりません。

明治天皇大葬奉送の歌

高田畊安謹詠

大正初年九月の夜　畏くも亦悲しくも
明治天皇靈柩を　靜に送り奉る
惟ふに皇の聖功　比べん者は他にあらじ
富士の秀でし山よりも　皇は勝れて大なり
東帝國の內外に　迫る憂患は繁かりき
良き船長のごと皇は　吾らを救ひ給はれり
而して興し給はりし　貴きもの、多きかな
青海原の水の如　酌めども盡きん時あらじ
明治の年は四十五を　超えれど最早大日本
二十世紀の列國に　嗚呼强者よと仰がれぬ
吾皇長く生き給へ　萬歲以上在しませと
屢叫び望みしが　今や期望を疑はじ
永遠の世を限りなく　治べさせ給ふ父聖神
慈愛正義を事させし　永主の胸を活かし給へ
六千萬の民の爲　誠心をこめ祈りつゝ
登りし皇の新日本　神よ愈惠み給へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（二）青年時代の追懐

安井哲子

「明治の人間」といへば、先頃までは未年若き感じがしましたが、それも何時しか四十五年を過ぎ、思ひもかけぬ改元さへもあつて、今では自分も四十を數へる年齢となりました。先帝俄に崩御せさせ給ひ悲痛の感絶頂に達せる折柄、突然乃木大將の訃に接して秋の思ひを一層深からしめました。今日は終日の降雨で、世は何となく靜に、訪ひ來る人もない一室に彼れを懐ひ此れを想つて終に二十年前の昔を追懐し初めました。

　二十年前といへば自分もまだ元氣に充ちて居た青年の時期でありました。お茶の水の附屬高等女學校を終つて今少し學ぶ場處もがなと、終に其本校に生徒となりました。未だ十何歳の青年、唯將來を夢み無數の空想に憧憬がれて其日々々を送つて居ました中に、不圖教育といふ仕事の如何にも貴く又如何にも興味ありげに感じられて以來、何とかして智德を研き此身を教育事業に捧げて見たいと若い心を動かし初めました。固より學校の性質上卒業の後は義務として或は都會に或は地方に教師として働きました。此當時の若い心は實に愛國の情に充たされて居たのでありました。而も此頃は西洋熱の盛んな時で、學校で舞蹈もすれば「クリスマス」もするといふ時代、世に有名な學者や、貴婦人達が學校の講堂に集つて盛に夜會を開くといふ有樣で、有志の者は生徒も亦

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

之れに加はりました。併頑固なる自分は此異様の風に何等の興味をも有たなかつたのみか、何となく不快の感に堪へぬので、親しい友達と相會して慷慨するのが常でありました。學科として英語の幾分を學びましたが、未之れを以て英米人を研究するまでには進歩して居りませんでしたから、一も二もなく吾國程偉い者は、世界にあるまいと固く信じて居りました。

其後思ひもがけぬ留學の命に接して、急に英語勉强の必要を生じ、そこで久しく外國に學ばれたある先生の許に寄寓して教を受けましたが、此處に初めて英米人に接する機會を得まして、思想や趣味の自分達と大に異つて居る人々に逢つたのでありました當時、自分は何故か「クリスト」教を以て吾國に危險な者と考へ、友人などの之れを信ずる者がありますと其心情を了解するに苦しんで居ました。然るに思ひがけぬ留學となつて、久しく吾國に傳道して居つた英國婦人と同道する事となりましたので、友の誰彼は親切に「クリスト」教の信仰に就て種々の注意を與へてくれました。

乘つた船は英國船であり、船客の過半數は英國人でありましたから、船中既に英國の風俗を見習ふ機會が非常に多くありました。連れの婦人は宣教師であるだけに朝夕二回必船室で聖書を讀み又祈禱を捧げましたが、一日一回二三十分間は必私も聖書を讀まされました。之れで少しづゝ聖書の何物たるかを知り初めましたが、日曜の朝は必船客の多數が食堂に集つて船長が聖書を讀み祈禱をして禮拜するのを見まして何ともいへぬ美感に打たれました。終に有名なロンドンに着きましたが、恰も日曜日の夕方なので、あれ程繁華の都會も靜まりかへつて寺院の鐘のみが遙に聞こえて居りました。かくて此處から再長い汽車路に依つて同伴者の家に着きましたが、之れも亦同じ日曜日の夜とて周圍は實に靜肅でありました。

俄に言語風俗の異る外國住居の身となつて、如何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に自身を處置しやうか、又如何なる方法で是等の人人を研究しやうかと逕りに迷ひましたが「郷に入つては郷に從へ」の誡に依つて兎も角も虚心平氣に彼等の習慣に從はうと決心致しました。そこで日曜日には朝夕二回家族の人々と共に敎會に行きましたが牧師の說敎は多大の興味を以て常に謹聽致しました牧師は博學高德なる盲人でありましたが、時々訪問して親の子に對するが如く心から私の旅情を慰められましたが、決して直接に宗敎の話を致しませんでした。

此地に止ること二三ケ月で、終にケンブリッヂに行く事となりましたが、其處の某學校に入學した翌日校長は其室に自分を呼んで留學の目的を問はれた上、之を達する良方法を示されました。私は此時初めて自分從來の修學の目的と其仕方とが如何にも淺薄偏狹であつたといふ事に氣がつきました。此處は諸處の大學で種々の專問學を學んだ學士達や外國の留學生なども居りました。年齡は皆二十歳以上の者でありましたが、能く責任ある自治の生活が出來て居ました。彼等の中には新敎徒もあり舊敎徒もありましたが、誰より何等の干渉も受けず、各其屬する敎會に日曜日の朝を過ごしました。彼等は妄りに人を恐れませんから心が實に伸び〳〵して居ました。而も決して高慢不遜でありません。敬虔の念に充ち周圍には親切でありました。彼等は又實に自重心に富んで居りました。其故に單に規則や敎師の小言に依つて其行爲を制するやうな事はなく、彼等自身の心の聲を聞いて表裏のない行爲を續けて居りましたかゝる生徒を見た私は實に感に堪へませんでした。私が日頃作らんと苦心して居た生徒は實にかくの如き者であつたのであります。其後私は敎育史を讀むにつけ、學者の講義を聞くにつけ、さすがの「クリスト」敎厭ひも此宗敎が敎育に及ぼした影響の實に大なる事を公平に感ぜずには居られませんでした。

人間が或意味に於て神の子であると考へた時に、吾々人間は如何するでありませう。幼兒にも神聖犯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すべからざる者を發見し、男女貴賤皆人類として等しく教育を受くる權利もあり、又自己を教育する義務もあるのである事を覺りませう。現在が我以外に理想的我即神性の我ある事を意識すれば、常に之に向つて進まんとする向上の念は自然に出來ませう。

此に於て初めて教育は神聖なりといふ意味が明になり、教師の自己に對し又生徒に對する觀念が全く一變するのであります。私は此時初めて人間としての自分の立場も、教育といふ仕事の眞意も明に覺り得たやうに感じたのであります。其後再國家問題と「クリスト」教との關係に心を惱しましたが、神に服從信頼する者は一層深遠なる意味に於て幾倍の熱誠を國のために注ぎ得るといふ實驗を得て、此疑問は氷解されました。

「井中の蛙は大海を知らず」で、狹い天地に觸れて居る者と、廣い世界に觸れて居る者とは、自己に對する意識に非常な差異がある者であります。同じ小さい人間でも天地の神に觸れた生活には言ふに言はれぬ偉大な威があります。日々勞働者の仲間入りをして裏屋住居をして居やうとも、其心は常に天地の一大理想に向つて進まんとの希望があり、之れが又此世の誘惑や迫害に打勝つて、平然正道を進み得る勇氣の宿る處であります。

私は今茲に十有余年前の自分を省みて、年齢の增した以外現時の我に何等の進歩を見ざるを悲しみ、又かくまでに愛した國家に對して何等報ゆる處もなかつたのを深く悔ゆるのであります。併自分の行くべき道を明に見出し得たると、之れに向つて向上せんとする、希望のあるだけは、信仰に依つて得た大なる賜であります。取るにも足らぬ此身を遠く海外に送つて下すつた恩師や、之れがために多額の費用を拂つて下すつた國家に對して、誠意誠心力の及ぶ限りを盡さねばならぬと思ふにつけても、努力の足らざる事を深く歎く次第であります。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(三) 身の棘は愛の鞭

宮川壽美子

△少女時代の覺悟

私はもう十四五の時、既に外のお孃樣とは違ふから、自分で自分の身をたてなければならぬと決心しました。それ故一層よく勉強しなければならぬと思ひましたが、學問も人並に出來ないので、なぜこう自分は鈍い質に生れ付いたのであらうと嘆かれるのでした。その頃は麻布の東洋英和女學校に居りましたので、日曜には敎會に行く、すると或日の說敎に神樣は心ばえさへよくすれば、事の成否は問はずして、お喜びになるといふ事を伺つて非常に嬉しく、學問の出來ない私でも、氣をつけさへすれば神樣を喜ばせる事は出來やうから、どうか心を正しく美しく持ちたいものであると考へましたが、さて勉めても勉めても、愈々過ち多い自分の心を見て失望する斗りでした。そこで先生の處に行つて、どうしたらよいかと御相談すると、先生の申さるゝには「おすみさん、あなたはいろはを忘れる事が出來ますか」と尋ねられましたので「いえ」と答へると、先生は「そこです、いろはとてあなたが生來知つて居つた譯ではなく、一字一字覺えては忘れ、また習つては覺えして、どう／＼忘れる事が出來ない樣に、あなたの一部分に(a part of you)になつたのであります。善事もその通りで、失敗に失敗を重ねても、勉めて居る中には善といふ事がもう取去る事の出來ないあなたの一部分になるのです。もう一度勇氣を出して勉めては見ませんか」とやさしく諭されて、あゝその通りであつたと喜んで、再び勇氣を出して勉め始めました。その後忘れもしませぬ、或夕方の說敎に故本多庸一先生が「エホバは心を見るなり」といふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

題で、しみ〴〵と「神樣が私共のなほすことの出來ぬ人の外側を見給はず、進步さする事のできる心を見て下さるとは、なんと有難い事であらう、なんと有難い事であらう」と、腕を組んでは解き、組んでは解いて、感に堪へぬものゝ如く叫ばれた其聲は私の胸に深く泌みて、淚こぼるゝ斗りに感じました。

又或る時私の不甲斐無い事を先生に申上げましたら先生の申さるゝには「終日眞黑な前掛けをかけてせつせと働いて居る油さしもあれば、多くの大きな車を力强く牽いて行く機關車を發明するやうな働をする人もある。神樣は人々にさま〴〵の才能をお與へになつたが、心を見給ふ神樣は決して油さしの働らきをも卑しみ給はず、忠實にその務めを營めば、心を御覽になつて、必ず之れを嘉みし給ふのである」と、その日は明日休暇で歸るといふ前夜でしたから家に歸れば兄嫁も居らるゝが、小姑なる自分の油の注しやう一つで、家庭內も樂しく暮らす事が出來やうから、よく注意し一家の平和を計りなどして、少しはこの不成績の罪ほろぼしをいたさんと云ひしれぬ希望に滿されました。

△身の棘は愛の鞭

かのポーロが身に三つの棘あるのを常に嘆いて、之れを取去られんことを神樣にお願ひいたしましたが、神の愛之れを取去り給はざりきといふ事が聖書に御座います。ポーロの三つの棘とは身體の弱い事目の惡い事、貧乏であつた事、この三つでありました。ポーロがもし棘がなく完全であつたなら、あんなに敬虔なる心をもち神の御前に働らくことができなかつたかも知れません。人間には何人にもポーロと同じく棘があるのである。その棘を善く使へば誠に惠みであります。私も多くの棘を持つて居つて、つく〴〵と失望した事もありますが、またこれこそ愛の鞭であると思ひ直すことによつて、今日までかくながらへ得たので、それは實に宗敎のおかげであると感謝いたして居ります。殊に獨りにて暮して居

る私には、どうしても忠告者が必要であります。若い内なら親兄弟もあり、師友もありますが、年取つては他の方々が夫や子供から遠慮のない忠告や教訓を聞かれるやうな事は先づ出來ないと見なければならぬ。それにはどうしても神樣に賴つて、始終自分の低い小さい心を絶對善に照らして改め進めて行かなければならないので、人は何と申さうと、私には宗教といふものは是非なければならないので御座います。それでも信仰の弱い自分は時々不愉快になるので、かやうな時は必ず心が神樣から離れて、自分といふ事を多く思つて居る時であります。かの乃木將軍は誠に偉大な方で、その御生涯からは學ぶべき事が澤山ありますが、私は將軍をしてかく偉大ならしめたといふ一つの原因は、かの明治十年の戰爭後より、常に死を決して居られたので、事每に命懸け卽ち私を捨てゝ全力を盡して當られたといふ處にありはしないかと思はれます。誠に人間が命懸けになる程、力強い、また安心なものはありません。私なども一身に何の係累がない所から、鈍い乍らも全力を盡して命がけで働らき斃れるといふ覺悟を持ちたいと存ます。

△理屈詰めの生活

然し自分の意志のあらん限りは、理窟に叶つた生活をして行かうとして居ります。例へば旅行中二ヶ月間も船に居りましたが船に乘つた第一日から、搖れるとか、ペンキが臭いとか云つて、それに負けてはならない、そんな事位で死ぬる氣遣ひはないからと、日常の規則通りに生活しやうと決心し、朝六時に起き、身體の工合をよくする爲めには、一番便通を宜くする事が大切であるからと、どんなに搖れてもペンキ臭くとも勉めて日常の習慣をすませ盥漱に入り、チャンと衣服を調へて、大洋の波を碎いて走る船首に向つて靜かに聖書を繙き、祈禱をする。するとヤコブが旅寢の夢に足下から天に通ふ梯子を見たと申す如く、いかにも眼前に梯子がかゝつて居る

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

様に遊戯談笑の内にも直接に神様と交はる事が出來て、心は清く高くなる。それから甲板上を運動するにも波の揺るゝ通りに身體で調子をとつてスタ〳〵と運動するので、地震の時に行いて居ると動揺を感じないやうに、船の動揺を感せず却つてすつかり空腹になり、朝食の鐘がゴーンとなると、食堂に入つて心地よくものがいたゞける。食事後は椅子によりかゝり少しく船の揺る方向に動かし氣味にして休みます。其後また運動して居ると、友達が話しかけてくるので、いろ〳〵と談笑し、勞るれば長椅子により、ショールをかぶつてグウ〳〵眠る。醒めて頭の休まりたる時書物を讀み、つかるれば眠り、また運動するといふ風に致したので、一日でも不愉快に暮した事はありませんで、ます〳〵ふとりました。

これが第一日に於て心弱く一つの事に負け始めますと便通なきため氣もちあしく從つて船痛で甲板にも出られず、空氣の流通あしき小さき室にひきこもり遂に二ヶ月を最も不愉快に暮し、身體を疲らして終はなければならぬ事になります。日々の生活もこの通りで週には厭だと思ふ事があつてもグツト抑えてどし〳〵と遣つて參ると大抵は押し通せるものです

△經濟上の獨立

人間は精神と共に肉體も持つて居るのですから、精神修養のみに傾いて、肉體の方を疎かにすれば、それ丈けの缺陷は出來て參ります。殊に私共のやうに獨にて身を立てねばならぬ者には、どうしても早くから節儉をして人の御厄介にならぬやう病氣の時の爲め、また老後や、死期の爲めに、相當の貯畜をしなければならないと思ふのであります。

右の如く精神修養のためには絶對善なる神様をいたゞき、又肉體の保護のためには常に勤儉にして相當の貯蓄をなしをき人様の迷惑にならぬやうに致して後ち、だん〳〵人の爲世のためつくす事が出來るやうにありたきものと願つて居ますが、誠に我儘で實行ができず何とも申譯が御座いません。

（四）全く我れに克ちし時

山室機恵子

△苦悶を啓かれたる光明

昔の人は十三になれば大人になると云つたもので自分も十三になつたら、必づ偉くなるだらうと子供心に大層頼んで居つたが、十三になつても碌々として一向變りがない。家は南部藩の家老で、父はその六代目でありましたが、祖父の時代に一家チブスにかゝり、當時九歳の父とその姉とを殘して一時に病殁しました。そこでその姉といふのは父母に代つて弟を守り立て、その事を爲し遂げずは一生他に緣付くまいと決心したさうです。然るに幾何もなくその弟は風邪が原因で復チブスにかゝつた、そこで姉は我が身を忘れて晝は病人を看護し夜は二里もあらうといふお宮に忠僕を連れては、毎夜丑の刻詣りをして、身を以て弟に代らんことを祈りました。すると不思議にも弟の病は程なく癒えたが、姉は遂に僅かの病が次第に重り、もはや再び立つべからずと知るや、父祖より傳へた鍵を弟に渡して、くれぐ\も家運の回復を頼んで、遂に瞑目しました。この事は私の父には殆ど宗教になつて居つて、祖先崇拜は家風を支配して居りました。それ故父の代にはもはや物質上には疲弊して居りましたが、父祖の志を繼ぐ念もあつたので專心民利を計らうとて、北上川の沿岸に桑園を啓き、卒先して養蠶製糸の業を始め、日曜には漢學の先生を招いて小學校の教師を集めてその講義を聞かせ、夜は自分の家に夜學校を開いて、村の若衆を教育しました。かくの如く父は常に殖産と教育とを勸める事に盡力致しましたので、私も十一位の時から糸をとる事を始め、一生懸命働らきま

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

したが、父祖の事業を見聞するにつけ、心の中には何かにならなければならぬ、何かにならなければならぬと常に心を鞭つては、頭痛持ち故早く床に入らなければならないと云はれて居るにも拘らず、床に入つても二分心のランプをつけては讀書し、いつ迄も眠られぬので、眼をパチ〳〵させては、いろ〳〵の事を考へて居りました。或時は自分が餘りの不甲斐なさに、これでは御先祖に對しても濟まぬと思ひ佛壇の前に行つて自害しやうと思つた事さへありました。然るに或夜女學雜誌で「憂世と有喜世」といふ題で書かれて居るのを讀むと、この世の中は誠に憂き苦勞の絶えぬものであるが、只一つ天地萬物を司り給ふ神を知りて萬事をお任せし、神が一人一人に與へ給ひし職分に全力を注いて行く時には、實に喜びの世と代へる事が出來るといふ意味が書いてあつたので、日頃の苦悶がパット啓けて、氣分がいかにも爽かになり、丁度秋の夜で、窓を明けると月は澄み渡り、星はキラ〳〵と輝いて居る、この美はしい天地を司り給ふ一つの神を限りなくなつかしく思ふのでした。その夜の心地よさは今猶忘られません。

△神を求む

明治二十四年には日頃の志願が屆いて、上京して明治女學校に學ぶ身となりました。もとより自分の不甲斐なさに、自分で自分を嫌つて居つたので、どうか全智全能なる神を見出したいと一心に勉強し、論語や孟子は暗誦する迄讀み、日曜には植村先生の教會に行つて熱心に聖書の講義を聞きました。然し理屈ぽい頭とて、なか〳〵一直線には進まれず、且つ洗禮をさほど力ある者とは思ひませんでした。それでも土曜日は午後迄にすつかり用事を濟ませて、夜は暗い部屋で只獨り、月と星とを友に終宵祈るのをこの上なき樂しみとして居り、日曜には勇んで會堂に行きました。時々は自分はこんなに熱心に求めて居るのに、なぜ神と自分とはかやうにかけ離れて居るのであらうと歎き〳〵いたしました。すると或時熱

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

き祈りを捧げて居ると、ふと繪のやうに神と自分とが父と子供のやうに美しく示された。自分は渇いた時の清水のやうに嬉しく、その繪を失うまいと心に深く／＼刻み、その時より頑固な心は碎かれ、神と自分との間に離し難い親しみが成り立ちました。それで洗禮を志願しますと、聖靈とは何ぞやと問はれました。同じ志願者の誰れ彼れはいろ／＼學理的に之れをお述べになりましたが、自分の番になつて參つたか、人樣のやうな事は云へない。私は只かう述べました「私は此處迄自分を導いて下すつた不思議な力が聖靈であらうと思ひますが、何とも口には云へません」と云ふと、試驗掛りの長老はもう少し何か云へさうなものだと幾度も尋ね返へした。自分はこれ以上云へないと云ふと、どうも困る、まだ洗禮を與へまいかといふと、陰から植村先生が出て來られて、どうも佐藤さん（私の舊姓）の云ふ所が本統らしい。それで立派に洗禮を受けられるとて、却つて他の學理的に滔々と述べた方々には、理論に長じて信仰の添はぬのは宗教學校などに居つた弊ではあるまいかと戒められた事を覺えて居ります。そしていよ／＼受洗して神の國に入るの喜びを得ましたのが、十八の年でありました。

△國家に一身を捧げんの願ひ

二十才の春學校も卒業しました。自分の好みとしては、猶この上、靜かに書物を讀み、心理學、社會學をやりたいと思ひましたが、時は丁度日清戰爭の頃で男子ならば兵士に出でゝ、彈丸飛雨の間に奮鬪しなければならない時であるのに、女なればこそ安閑と机に向つて居る事も出來るのである。どうか國の爲めに何かお役に立ちたいものであると、靜かな庭に出てゝは三時間位祈りました。丁度その時兵士等の間に慰藉がないので、兵士に出た爲めに無垢の良民として終るべきものが酒色に溺れ、終には恐るべき病にかゝつて國の厄介者となり終る者が少くないと聞き、國の最も中堅となるべき多くの壯丁が左

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樣な有樣であつては國家の一大事である。どうかしてその救濟の道が講せられねものであらうかと。當時自分は母校を敎へ、傍ら雜誌の事務をとりつゝ自分を支へ、半日位は右の突飛な考への爲に腐心し、或は圖書館に行き、或は名士の門を叩きました。まだ學校を出た計りの若い身で、名士を訪ねる事は大抵の困難ではありませんでした。それに餘り突飛な事とて紹介狀をくれるものもありませんので、只管斷つては參る覺悟をしました。先づかの中將で亡くなられた大倉兵藏氏を尋ねて、自分のこの考へが適當であらうか、また軍隊ではどういふ風な事を求めるかといふ事を尋ねると、私はあなたと主義が違ふからと、一言の下に斷られた。次に長岡外史氏を訪ふと、こんな計畫に就て下田歌子とか棚橋絢子とかいふ人ならばだが、あなたの樣な人には話す丈けも無駄だと取合つてくれず、村田順氏に行くと始めて懇切丁寧に、若いのに感心な奮發をなされた、志は誠にたのもしいが、あなたの年頃では結婚といふ事もあらうし、殊に女子であれば兵士の間に働かなくとも、何相應に國の爲めに盡す道もありませうからと諄々と諭された。然し自分の決心はこんな事でひるむ處か、贊成者がなければ自分一人でもやらうと決心して、趣意書の起草に取かゝりました。然し生命を賭してする仕事に獨力でコツ〳〵營むのも餘り甲斐なく思ふし、事を大きくすれば精神を減らされると云ふので、實に苦心し、終には力及ばずしてこの事は成立しませんでした。

△心靈の世界に入る

その後救世軍の事を知り、山室に嫁しましてからは、救世軍の士官として働く事となりました。此處では團體に加ると共に、聖潔の惠みを受けなければなりませんでした。それには一つも自分を發してはならぬと云ふ事ですが、私は只一つかの辻說敎をする時、人を集める爲めに叩くタンバリンといふものを、どうしても叩く勇氣がない。この位の事と思ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けれども、どうしても氣耻しくて通りを打つては歩けない。かくてはまだ全く私を捨てたとは申されないので、いかにもしてこの我に勝たうと正月三日日本橋坂本公園の野戰の時、最も繁華な場所柄、人の大勢居る町々をタンバリンを持つて嫌だといふ念に打勝ち打勝ち叩いて歩いて、餘り強く打つたので、本營に歸つた頃は、そのタンバリンに手の血を塗つて居りました。この時から全く私といふものを去りました爲か、神と自分といふものが極く近くなり、祈禱が直接に聞かれる樣になり、眞に世の中の喜びを知る事が出來るやうになりました。眞の自覺と申せば、この時以來であらうと思はれます。そして救世軍の爲めに全く自分の身を捧げる樣な境遇に置かれた事は、自分が嘗て神樣に何か有益な事業に自分を用ひて下さる樣にとお願ひした祈りが聞かれたのであらうと喜びに絶えませぬ。

人生と宗教

△葡萄の樹　余は森を通りける時、我が腕ばかり大なる葡萄の蔓の四十呎も高く上れるを見、仰ぎ見れば、樫の大枝に搦みたり、然るに其傍の地を這へるものは、小さく低くて碌々伸びもせず。嗚呼唯樹に賴るとよらざるとにて、違へば違ふものなる哉。我等も堅く神に依て立てば、高く强かるべきに、動もすれば地上を這ふて嘆き悲しむこと少なからず。戒しめざるべけんや。」こはウィルソン、ビトナーの感話の一節なり。

△一本の藁切　以國の天文家ガリレオ（一五六四―一六四二）羅馬の宗教裁判所に引き出され神の存在につき如何に信ずるやと尋ねられしに、偶々其獄屋の床の上に落ちたりし一本の藁の片を指して「單に此物の構造よりも慥かに全知全能の造物主の存在を推論するを得るなり」と言ひ放ちたり。（歐米家庭德者佳話中より）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

精神界の新紀元

法學博士　浮田和民

△明治文明と其影響

世の明治文明を語るもの、泰西諸國が四百年を要して成し遂げた所ろを、我國は僅々五十年に成し遂げた、之は奇蹟であると云ふのであるが、奇蹟でも何でもない。夫れ我國開國の機運は決して一朝一夕の事でない。事の成るは成るの日に成るにあらずで遠くペルリ提督來朝以前に由來してをる。彼の新井白石は日本將來の憂は洋學にあると論じて鎖國の維持すべからざるを說き、八代將軍吉宗は其言を容れて蘭學を奬勵し、杉田玄白、前野了澤等をして之を講せしめた、之れ今より百三十年以前の事にして恰も佛蘭西革命の發端、米國に於ては獨立戰爭の頃であつた。又林子平が愛國の著述をなし天下を警醒したのは佛蘭西革命の最中で、卓見の士は外國の侮るべからざるを知り、力を竭して開國の議を說いてをつたのである。されば愈ペルリ提督が來て外から門を叩いた場合に、內より扉を開いて歡迎した譯で、我國明治の開國は僅々五十年の出來事でなく、佛蘭西革命の前後少くとも百五十年の歲月を要してをるのである。而して日本の革命は彼等が長年月の間に經驗を積み、苦心を重ねた其結果を取つたもので、獨立戰爭或は佛蘭西革命の原則をとつて、直ちに之を應用した。故に恰も手本によりて字を習ふと一般手を懷にして他の血を以て購へる結果を攝取したのであるから、夫れが四五十年にした所で決して誇るには足らぬのである。しかし世界の他の國に日本の如き境遇にありて、斯る進步發展をなした國のないの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は事實であつて、此事だけは威張れないでもない。

由來白皙人種以外の民族は歐米人と同等に見る事の出來ない境遇にあつた。夫れが日本の勃興により て少からず歐米の人心を動かしたのである。有體に云へば英米佛獨等の諸國が世界に對する態度方針は大體に於て定まつてをつた。例令ば基督敎にした所が、歐州人以外の人類は文明の能力がない、白皙人種は彼等を支配し、文明の恩澤を彼等劣等の人種に與ふるの使命を帶びてをる、基督敎も亦其通りで、基督敎の外には眞の宗敎はない、故に洗禮を授けて基督の名に入るれば夫れでよいと考へられた。斯の樣に精神界に於ても日本民族の中に基督敎以外の或る偉大なるものあり　我等は彼の精神を研究するを要す、單に洗禮を授くるのみでは駄目であると云ふ事を悟らしめ、政治外交の上にも日本の侮るべからざるを認めしめて、世界の人心に少からざる變動を與へたことは明かなる事實であつて、之に對しては余も亦一般國民と同じく、深く之を悦び日本の過去及び將來に就て必ずしも悲觀するものではない。

△敎育勅語の精神

明治初年の開國は極めて幼稚にして且つ部分的で條約改正の當時迄は三府五港に止まり、開國と云ふよりも寧ろ開港であつて、日淸戰爭の後に漸く本當の開國が出來たのであつた。しかも精神界は渾沌として未だ開國の機運に向はず、傳來の惰力は之を打破するに難く、唯だ智識の一部分のみが鹿兒島、下之關の戰に我の彼に及ばざるを實驗し、蘭學者の說に服して擧國一致以て進取の態度を取つた。一般に智識さへ取得すれば西洋以上になれると信じ、專ら智嚢を開いて盛に彼の長を取り我短を補ふたのであつた。斯る有樣で明治の前半は所謂道德を輕蔑し身を修め心を正しくすると云ふよりは、寧ろ智識を取得するに重きを置き、社會的、世界的、道德習慣と云ふことは深く研究せずして、押し進んで來た事は蔽ふべからざ事實である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

然るに明治二十三年の教育勅語が發布せられたのであるが、余を以て見れば教育勅語には新道德の原理が遺憾なく現はされてをる。此點は一般教育者も之を理解せず、又國民も之を看過して氣がつなかつた樣に思ふ。若し勅語の大精神が單に忠孝道德の鼓吹にあらば明治年代は確かに最もよく之を發揮してをる。一旦緩急あらば義勇公に奉ずると云ふ如きは日清日露の戰爭に於て遺憾なく之を發揚してをる。然るに余が教育勅語を以て新道德の原理が現はされて居ると云ふ所のものは單なる忠孝道德の鼓吹でない。勅語に「恭儉己ヲ持シ、博愛衆ニ及ボシ」と云ふ二句がある。熟ら思ふに之れ實に　先帝陛下の大御心の表現にして、勅語の根本精神である。此二句を理解してそれを實行すれば何も入らぬ、基督教もない、佛教儒教もない、之を理解して實行しさへすればよい。唯だ眞に之を實行するには色々の宗教の力を借らねばならぬ、之をからねば本當の實行が出來ないだらうと思ふ。此二句さへ十分に守らんとする精神あらば、遺憾なく五倫を完ふする事が出來る自分の人格を持する能はず、自己に忠ならざるものが、いかで君に忠なるを得んや。自ら欺く者がいかで友を信ずるを得んや。自らを愛せざるものが、いかで人を愛するを得んや。自ら思ふ事を口に出す能はざるものがいかで正義を論じ得んや。我意見我信仰は異なるも輿論の壓迫を恐れて沈默する者、いかで君の馬前に立ち塞がりて諫言をなし得んや。眞の忠臣は君の馬前に討死する者でない、君の御前に進み出でて諫言する底の人こそ眞の忠臣である。

陛下は四十五年の長き御在位の間、一日も御位を曠うし給はず寢食を忘れて國家人民のために大御心を惱まし給ふた。陛下に忠を盡さんと欲せば　陛下の最も宸襟を惱まさせ給ひし人民を愛せねばならぬ農夫や貧民に心を寄せねばならぬ。云ふ迄もなく日本は軍人ばかりで維持されて居らぬ。愚夫愚婦と云はるゝ者や弱い婦女が蠶を飼ひ、糸を繰り或は機を織るのがこれ即ち產業である國產である。兵卒は平

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時水呑百姓となり、又工夫となり朝より夕まで、真黒になつて働いてをる。其粒々辛苦の結果が一國の富をなし政府の財源となる、財源なくば戰爭は出來ないのである。陛下に忠を盡さんとする者は之を思はねばならぬ。斯くの如く我が社會の一面には實にみじめなる生活をなせる同胞が居ることを思はねばならぬ。斯る仁愛心なくして、然も尚ほ忠君愛國の人と云ふことが出來るならば、余は其忠君愛國なるものを信ずることが出來ない。以上は明治時代の一般的文明に就て余が見たる處を述べ次に明治年間後半のオーソリチーとして、國民道德の歸趣する處を示したる敎育勅語、新道德の原理を包含する所の勅語に就て予が所思を述べたる次第である。之を要するに明治時代は何に限らず形式だけは立派に整ふたが精神が夫れに伴はなかつた、大正時代はこの內容を充實すべき時代である、精神を發揮して此形體を活用すべきは大正國民の責任である。

△今後の思想界に望む

明治初年の思想界は其範圍極めて狹く、一般人には思想はなかつた。思想あるものは僅か少數の人々で、開國進取の說を主張したる人士の如き卽ち夫であつた。當時は政治家卽ち思想家で、彼等は國家の將來をどうしやうかと考へ、大に活動したのであつた。而して多數の人は之等少數人士の思想に支配せられ、其意向に從つて進むのであつた。左れば舊時の思想界は少數ではあつたが突兀として高く聳え、一般政治家や實業社會は之を仰ぎ見るのであつた。然るに近代は思想界の人士は非常に多數であつて、同時に範圍が廣くなり、舊思想界とは余程變つたものになつてをる。新思想の人には大人物がない。つまり多數ではあるが、高く聳えてゐない。昔は政治經濟が思想界の下にあつたが、今日は却て政治經濟社會が上で精神界が下である。之れ現今思想界の形勢である。思想界は何處までも政治界の上にあらねばならぬ實業界の上にあらねばならぬ。思想界が政治界の下位にあり、思想家が輿論の後を追ふて行く

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樣では、社會の木鐸となり、社會を指導することは望まれないのである。

茲に於てか余は大正の初年に於て切に精神界の獨立を希望して止まない。明治晩年の思想界は政治のために制肘せられ、金錢のために壓迫せられ委靡して振はなかつた。明治の初年と反對に物質界から見下ろされてをる傾がある、之れではいかぬ。思想界の人士は須らく、ソクラテースやクリストの氣概と識見とがなければならぬ、ソクラテースは眞理を主張して王者の前にも其節を屈しなかつた。そこで貴樣の説は危險思想だからやめよと國王に注意されたけれど、斷乎として聞かなかつた。遂に彼は毒殺せられたのであるが、ソクラテースは殺されたけれど彼の哲學を滅ぼす事は出來なかつた。彼を壓迫した國王は之を知るもの少いが彼の名とその哲學とは永久不滅、世界の有らん限り傳はるであらう。また基督も其通りである、當時猶太王國は羅馬の兵權に蹂躙せられ、國民は滿腔の熱情を以てメシヤを待ち望んだ、其意味は即ち國權を挽回して、昔の猶太王國を打立つる人としてのメシヤであつた。聖書の中に基督の泣き給ふた記事が二個處ある、其一はラザロの死んだ時で、他の一は橄欖山よりエルサレムを望み見た時である。前者は同情であるが、後者はユダヤの前途を思ふ愛國的志士の涙である、斯く彼は愛國的熱情に燃ゆる血性男兒であつた。然るに彼は今日無謀の擧をなすは益々死地に陷るもとであるを知り、ユダヤ人の長所其天に負へる宗教的使命を完成して精神界の王國即神の國を建てんとした。我國は此世の國にあらずと唱へて政治兵權とも衝突しない王國の建設を鼓吹したのである。斯くの如くソクラテースは智識界に不滅の王國を立て基督は道德界に之を打ち立てた。而して百世の下萬人をして慴仰せしむるのである。余は燦爛たる明治の物質文明に對し滿足を表すると共に、一面其精神的方面に向て一大缺陷あるを認むる。今後の日本は精神界の新紀元を開いて大に之の方面に發展を計らなければならぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

外人の誤解とは何ぞ

農學博士
法學博士　新渡戸稲造

私が歸朝すると間もなく、一高の生徒總代が、折目正しい袴を付けて數十人態々私の處に訪ねて來て今回は大任を完うして、無事に御歸朝になつて誠にお目出度い事であります。一同に代つて謹んでお喜びを申上げますと申しましたので、私はよく云つてくれた、今迄數回海外には渡航したが、それ等は皆留學や視察の爲めで、極めて氣樂な旅行であつたが今回は國交にも關する事で、實に大任であつた。それがまた公然たる外交上の問題ならば、一局部の人々と共に狹い部屋に入つて協議するのであるから、たとへ失態があつても、極く少數の間に聞ゆるに過ぎぬが、今回は公開の席に於て幾百回かの講演に於て、種々雜多の人々を相手にし大事な問題に就て論ずるのであるから、實に一言一句、四方八方から鎗を容れられない様にする斗りでなく、從來の誤解を解いて感情の融和を計らなければならないので、實に困難を覺えたと申したか、實際今回位頭を使つた事は先づなかつたのである。米人の誤解とは何かといふに、

日本は戰爭好き

といふ事である。成る程近年日清、日露の戰爭によつて、俄かに我が國威を世界に輝かしたのであるから、さう見るのも無理もないが、私は之れは絶對に違ふと申した。その證據には日本は徳川時代から島原の亂がある迄二百五十年間平和が續いた。何れの國に於てか、しかく長く平和を保つた歴史があるか。倘明治になつては、屢々外國と干戈を交へたの

は御承知の通りであるが、之れ等は一つも侵略的に自ら好んで戰爭した譯では決してない、皆自衛上或は東洋の平和を保つ爲必要に迫られて止むを得ず行つたのであると申すやうな意味で話すと、會衆は驚いて、日本が左程に平和を愛好する國であつたと云ふ事は、今迄少しも知らなかつた。成る程さう承れば合點が行くと申されるのである。これは先づ識者と申す側の間にある誤解であるが、極めて一般に行き渡つて居るのは、

日本人は商業道德がない

と申すことである。なぜかと尋ねると、日本に行つて多くの銀行に行つて見ると、皆その店員は支那人であつて、日本人は僅に小使か門衛位を務めて居るのである。これは日本人が互に信用せぬし、また實際信用が置けぬ處から、却つて支那人を雇ふの勝れるを見るのであると申すのである。私が申すにはそれは私共日本人が米國に來つて、銀行に行くと頭取から店員迄皆日本人で、僅に小使や門衛が米國人であるのを見て、日本人は米人より信用が置けると速斷するのと同樣である。私共日本人が外國に於て厄介になる銀行は皆日本に本店があるので、此處で仕込まれたものが、各所の支店に派遣せられるのである、それと同じく歐米人が日本を訪ひ、多く横濱神戸等の銀行に於て取引するが、それは大抵英國の銀行である。英國人が東洋に有する銀行は、多くはその本店が支那にあるので、本店に於て業を習ひ、信用を得た者が、各所の支店に派遣せられるので、勢、諸君の目に觸るゝ日本の銀行には、支那人の店員が居る譯ではあるまいかといふと、成る程と云つて大笑し去るといふ有樣である。誤解と云へば大方かゝる種類で、愚にもつかぬ事であるが、然し誤解が誤解を生んで遂には大事を釀するのであるから精々念を入れて、辯解して參つたのである。云々

（文責記者に在り）

山上の垂訓を讀む

三井芳太郎

予は幾度か是を讀み幾度か是を講じ其度毎に新らしき敎訓に接するの思ひをなし、讀む毎に始めて其敎訓に接したるが如き新鮮の感想を抱くものは馬太傳五六七章に亘る所謂山上の垂訓であります。予は今近時の感想を略述したいと思ふのであります。併し其感想は到底文筆では述ぶることが出來ぬ所のものがあるのであるが只其幾分でも讀者に配つことを得るならば幸であります。今はたゞ其最初の部分なる八福に就てのみ記すことゝしやう。

傳へ云ふ、ガリラヤの西方カペナウンより三里、海上を拔くこと一千尺こゝぞ祝福の山、説敎の山なりと。德富氏の順禮行に記して

「道は帶の如く山の脈をうねる。山の頂は圓くして額に些の岩あり、後鬢に些の橄欖あり、勾配なだらかに低れて山腹麥熟したり、案内者は此れこそさいはひの山と傳ふるものと敎ふ。たまたま馭者は鞭を途上に落しゝとて、馬車を山腹の道に置きつゝ後戻りして見に行きたれば、余もやをら下り立ちて、道傍に生ふるシリヤ撫子、シリヤつゆ葵、シリヤ女郎花と名を知らぬまゝに假りに命名したる草花の美しきを摘みつゝ、悠々と四方を眺む。

ユダヤの山の磽确にしてイカツく、サマリヤの山の聳りてせゝこましきに引易へて此ガリラヤの山のさても舒々となだらかに人なつかしさよ。湖は未だ見へざれど、其向ふの山々は道の行手に頭を露はし初めぬ。吾立つ山の裾は幾重の襞をなして谷に下り春は蕨ももゆらんと思はるゝばかり草一面に生ひたり。」辨當持ちてピクニックでもしたき山なり。此處を説敎の山とし又五千人を養ひ玉ひし所とする傳説は賢し。

今傳説の眞僞を問ふは拙し。主はげに此山に歩を運ばれ、數多の群集はこれに從ひ初夏の頃、草靑々と繁り野花咲き亂れ、碧の空に涼風をうけて、語るも聞くも草を藉きて茵とし、主が彼處の小鳥を指しては天空の鳥をみよ、此處の白合を摘みては野の百合をみよと語り出で給ふ光景を想像せよ。聽者或は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

草の上に足なげ出すもあれば、端坐するもあり、頬杖つくもあれば首を垂るゝもあり。此自然の中に此大人格の妙音に接したる聽衆の心事を想像せよ。主は學者の如くならで權威ある者の如く語り玉ふに驚駭せりとは理なりけり。馬太傳五章四節に「イエス口を啓きて彼等に敎へ」とあれば主は沈默してしとしと登山せられし樣も思ひやらるゝのである。心の貧しき者、哀む者、柔和なる者、…………此等は福なりと宣言し玉ひし時は當時の學風――繁錯にして理窟つぽき風潮――に反抗して颯々として語り出で給ふたのであらう。春風は溫和なればこそ枯木に若芽を萌え出ださしめるのである。荒める人々の心には主の溫容を通して語らるゝ妙音が如何に溫かき感化を與へたことであらうか。

主は同情の人である。見よ主に從ひ集れる者は平凡の民無知の民、平和の民從順の民であつたらう。學者やパリサイの人は高慢自尊にして此群に參加するを潔とせなかつたであらう。貧者、哀む者、柔和なる者、心の淸き者と云ふは卽ち其處に集り來れる群集を指して此等は幸福の人なりとのたまふたのである。學者やパリサイの人々からして精神界を遠かれる下級の民として顧みられざりし人々は主によりて尊重されたのであります。聽衆の或者は慰藉されたのであらう、或者は感極まつたであらう、或者は淚を流したであらう、或者は餘りの獎勵に安然たりし者もあつたらう。主イエスの同情心の深いことが察せらるゝのであります。

次に考へねばならぬことは貧者の福であり、哀む者の福なる所以は深く味はねばならぬ。併し予は說明を茲に省略することゝする。次に柔和なる者矜恤ある者、心の淸き者、和平を求むる者皆幸福の人であるとは是亦深く思はねばならぬ。柔和、淸潔、平穩、同情の人は實際少いのであります。心に何等の不平も苦痛も煩悶も礙滯もなき者は甚だ稀であります。神を知らぬ人にはかゝる人は殆んどないと云ふてよい。神を知る人、基督者であると云はるゝ人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人の中にも眞に平和な人柔和な人何等の不平煩悶のなき人は少ないのである。道を傳ふる牧師の間にも今日は短慮なる人、怒り易き人を往々見受くるのであります。あゝ難いかな、平和の心柔和の心、清淨の心同情の心、此等圓滿の心を持する事の如何に難い哉であります。然れども神の子たる吾人はこゝから修養をつまねばならぬ。八福の最後に義のために責らるゝ者と云ふがあるが、これは如上の七福が圓滿に具備されねば到達されぬ境涯で、心が堅固に出來上り義の爲めに責められても克己忍耐で之を忍ぶと云ではなく、如何に責めらるゝも此等に耐へうる内的の力が出來たことを意味するのであらうと思はれます。十一、十二節は八福全體を總括したものと見るがよからう。今日の基督者は牧師も不信徒も深く深く此八福を味ふて自ら其徳を高うすることが必要である。地の鹽、世の光の實はこれによりて顯はるゝのであります。殊に姉妹諸子は柔和、清淨、矜恤、平和の諸徳を圓滿完全に積まんことを希望して已まぬのであります。山上の説教を讀んで抱いた予が感想の一部分を、如上披瀝した次第であります。

聖書に感ず

痛く其主人に信用せられたる奴隷あり。一日頭白く腰曲れる老いたる黑奴の、賣物さして市場に出てしを見、主人に請ふて之を購ひ伴れ歸りていたはりたり。寢床も一つ、膳も一つ寒くて慄へば日向につれ出し、熱くて汗すれば陰に誘ひ、注意至らぬ限なかりしを見て、或人「如何なれば此くはするや、汝の父か」「否」「汝の兄弟か」「否」「汝の友人か」「否」「されば何ぞや」「彼れは我が敵なり、過つる年、余を郷村より盜み出して、奴隷に賣りしは此者なり。余は聖書に所謂「爾の仇、若し飢ゑなば之に食ばせ、若し渇けば之に飲ませよ。爾かくするは、熱炭を彼れの首に積むなり」さの語に、感じたれば、かくはなすのみ」さ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遠藤千浪さん

有田四郎

松井夫人

千浪さんは、とう〳〵なくなられた相ですね、何れ餘り長生きする人でないとは密に思つて居ましたが、餘り突然なので實は少なからず驚きました。御主人の御手紙によれば永眠の一週日前の葉書とかにわれは「幸運兒なるかな、召さるゝ日は近し」とあつた相ですが私はすぐに、あの、落凹んだ眼を靜かに閉ぢ、色の惡い唇をかすかに動かして祈つて居る瘦せた頰髭の顏を思ひ起さずには居られません。

慰めて呉れる人もない臺灣のはてゝ、たゞ永遠の命を信じつゝ靜かに眠つた氏の一生はまこと漂泊者の寂しい最後だつたと思ひます。

私はいま筆をとつたが何も哀悼の辭を書き並べる積りではないんです。たゞ三年前、ソウ最早三年になりますね、あなたから紹介狀をいただいて小笠原嶋の千浪さんを訪ね其處に三ケ月の旦暮を共に送つた、當時の生活を思ひ起してたゞなんとなく書いて見たく成つたのです。

明治四十二年は私にとつて忘れ難い年です。私が學校を卒業したのが四月、父が、亡なつたのが六月です。其時分私の頭腦は無暗にクシヤ〳〵して居つたので、都の巷でウジ〳〵して居るよりは太平洋のまん中で心行くばかり呼吸して見たいと思つて、さては、小笠原渡航の希望を果すとに成つたのです。八丈島の夜明けに、もの凄い殘月を仰ぎ、繪に見る蓬萊の樣な父島二見港の景色に見され母島に着いた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のが横濱出帆後一週目位だつたと覺えています。汽船がコーナッピーチの岬あたりに停泊して小一里ばかりも艀に乘つて、やつと陸地に着いた時、月に一度の便船を待ちこがれた島民はワイ／＼と群つて來る。私は兩手に油繪の道具とトランクとをブラ下げて人ごみをさけて海岸に上つた時タマナの木陰にかたまつて居つた一群の中から袴をつけた瘦せた人がヅカ／＼と進んで來て「あなたが有田さんですか」と聲をかけた人が千浪さんだつたのです、で其時は丁度日曜の朝だつたので十人ばかりの教會員が出迎えて吳れ教會まで一所にブラ／＼と歩いて行つて共に禮拜をしたのですが、其日の說教は「友あり遠方より來るまた樂しからずや」と云つた樣な意味でした。之はあとで氏の自白ですが、母島の教會の基礎がやつと定まりかけた處へ異端視されて居る本鄕教會の人間が來ると云ふので一面非常に警戒して其爲に祈禱會まで開いたと云ふことです、御承知の通り千浪さんは福音傳道館派の牧師ですから、私共がそんなに恐ろしく感ぜられたのも無理もないかも知れません、然しあとでは一つ話に成つてしまひましたが、それから私は同じ邸内の一軒家に眞野と云ふ小學校の若い先生と同棲する樣になり、千浪さんは教會内に起臥し、食事は別の棟に成つて居る食堂で共にやるのですが、たしか氏は丼の樣な飯椀で一日に二食だつたと記憶して居ます。

毎朝千浪さんと眞野君と僕と三人で揚子をくわえながらブラ／＼と側濱と云ふ處まで泳ぎに行つたことや、座相模などの樂しかつた日常生活のヿは當時の本誌に書いたと記憶して居ますからやめにして、此處には牧師として如何に苦戰苦闘されたかを少しく書いて見たいと思ひます。

母島に於ける氏の事業は一面失敗と云はねばなりますまい。實際色々な困難はどうしても充分氏の技量を發揮させるヿが出來なかつたのは誠に止むを得ない事で、決して氏の力量の不充分だつたと云ふのではないのです。困難なる第一の理由は小笠原の住

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

民は非常に現實的な薄べらな最も非精神的の人間なのです。其答でせう多くは内地の落武者なんですからね。それと何とか云ふ佛教の布教師が無智な島民煽動をしてクリスト教に反抗せしめたのも大なる原因です。私共が毎日ランプを圍んで樂しく夕の食卓について居ると外を通る所謂若い衆共が罵詈讒謗を並べ時には石まで投げて行くので短氣な私は幾度か飛び出して擲り飛ばしてやらうかとりきんだか知れない。然し其年のクリマスには少々こけおどしの積りで吾々教會の青年が集つて小笠原未曾有のお祭をやつたんです。往來には繪行燈をブラ下げ、教會は所謂お祭式にい、、、コッテリと装飾し日曜學校の生徒には汁粉を御馳走し、來衆には密柑をやる、菓子をやる、それに會員かはるがはる出て餘興をやる、私な

とは出來もしない琵琶歌を柱の塵も落ちよとばかりボラ聲を張り上げてガナッたので、クリマスでさえらひ盛んなものだと少なからず面喰つた樣でした。そのあと――多分正月の二日頃から敎會の庭で擊劍をやり出して、それが段々評判に成りはては集つて來た全島の靑年を盡くやり込めたと云ふ私の可愛らしい功名は、はしなくも耶蘇敎の奴等は非常に温しいが馬鹿に出來ないと云ふ考を一般に與へる樣になりかたがた敎會と靑年連との間が幾分接近して來たので、其後ピッタリ惡口雜言をたゝくものがなく成つた樣な滑稽じみたこともあります。

かく外面殆んど楚歌の聲とも云ふべき苦境にありながら僅か十數人の小さい敎會の内部には既に數多の波瀾があり殊に敎會ゴロとも云ふべき某老人は口でこそ鹿爪らしい言を並べて居るが、幾度氏を裏切つて傳道の邪魔をしたかしれなかつた。其他砂糖畑に働いて居る單純な靑年は常に氏のわづらひであつた。かくの如き理由の爲に直接島民に傳道の困難を見てとつた氏は先づ永遠の策として、かたわら簡易圖書館を計劃し、内地の知人から讀み古しの書籍雜誌の寄贈を仰ぎ、又各種の新聞を集めて一般島民の縱覽に備へた、其外日曜學校は氏の全力を盡した處のものであつたが頑迷なる小學校長の干渉と布敎師の防害によつて、これすら意の儘に成らなかつたのは、氏にとつて如何に遺憾であつたか察することが出來ます。

私が母島の寫生を終り傳道館を辭して父島に向つたのは二月五日頃だつたと覺えて居ますが、其時氏の目はあやしく輝いて居ました。恐らく當時の氏の内心の苦悶は都に歸つて行く私の樣を見て堪らなかつたのだらうと察せられます。私の乘つて居る帆船が岬を廻りつくすまでしきりに帽子をふつて居つたのは氏と眞野君でした。私が父島に行つてから次の便でたよりがあつた、なんでも「白浪のよする濱邊に別れなば、いともすべなみ八度袖ふる」と云ふ萬葉の歌を書いてあつた樣に記憶して居ます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私は三月の中旬に歸京しました。

氏が二年の勞苦も泡と消えて止むを得ず小笠原を引き上げて歸京したのは多分其初夏頃だつたと思ひますが、淀橋の聖書學院から出した氏の葉書を受とつて早速訪問して色々小笠原のことを物語つた時、氏の眼には如何にも無念の思ひが漂ふて居ました其後淡路町の教會を牧する樣になり其處に引移られてからも幾度か訪問して、あの三階の小さい室で壽司など食ひながら、樂しく語つたこともあつた、然し放浪癖の私は其秋には北海道に渡り翌春からは關西に去つたので其間二三回より面接の期を得ませんでしたが、多分四五月の頃であつたか御影の加藤さんの宅に宛てゝ葉書が來た、「實は都に居ては、とても健康が保たぬから琉球の大島に渡る、で是非君に逢ひたいと思つて基督教世界社の方に使をやつたら加藤氏の宅は御影で君は其處に居ると云ふので非常に落膽した。來て貰ふ丈の時もないから、これで別れる」と云ふ樣な文句で大阪から出したのでした。今にして思へば或は其時再び生還を期して居なかつたのだらうと察せられます。其後四五日して御主人から御手紙を戴きましたが、氏が見る影もなく衰へ果てゝ新橋を立つた樣子と「或は氏と再び相見る期もなかるべきか」と云ふ文句を拜見して私は暗涙にむせばざるを得ませんでした。そのあとも一二度手紙の往復はしましたが私は南洋に去つたので其後の樣子はトントわからなかつたのです。氏が臺灣に行つたことを知つたのは漸く先月のことでゞ、そしていま、また氏の永眠を聞かうとは。

妻もなく子もなく氏や如何に寂しく、然し永遠の命を信じてほゝえむで此世を去つたことゝ思ひます。

氏と共に小笠原の離島で打とめた野羊の毛皮は今此處に敷いてあります。

今夜はしきり虫がなく。寂しい夜です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兒童の體質と品性

オークランド日本人獨立教會牧師　小平國雄

△圓滿なる人格

人格は近來進歩派の思想家に依りて、多く唱道せらる。されどそは多くは成人を中心としての推論で邪氣なき兒童を尊重して朦朧氣ながらも、天授の人格が光を發しておることを發見されたのに對しては、少なくも晩近心理學者に感謝せねばならぬ。勿論基督教では已に嬰兒は神の子として愛するけれど、其の諸機能を解剖して、微細な點までも、攝理の御手なしには、發育せぬものであることを科學的に研究される樣になつたのは、生理並に心理學の賜である。故に世の父母、教師も只教訓一點張りでは、完全に近き教育は不可能になつてきた。醫師でも其の如くナイフ一本で病人の前に立つことは出來ぬ。少なくも病者の精神狀態をよく見拔くにあらずんば、投藥も何の効を奏し得ぬ。同時に宗教家、精神科學者でも、靈魂專賣では、圓滿な人格を養成し難し。斯くの如く、靈肉を一纏にした人物教育が、現代の要求なりてふ立場より暫らくの間兒童の體質と其の品性との關係が如何に密接なるかを見ん。

△成人已に然かり

成人した男子の體量の三割三分は筋肉であるとはスタンレーホール氏の說く所である。モーズレー氏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の如きは品性は單純なる筋肉の習慣作用に過ぎずと迄極論して居る所を見れば、一筋の肉も實に重大なものとなつてくる。事實熟練とか忍耐とかは意志作用もあらうけれど、重に筋肉の善用に基因するもので、其反對に精神疲勞、ムラ氣、或は克己心のなき時の大部は筋肉の疲勞に依る場合が多い。非常な空腹が聖者を餓鬼と化せしめ、土用の酷暑が時に立儀を亂ださしむるが如き、主として肉體が受くる刺戟の變動に基くことを知らん。成人巳に然かり、況んや意志力の最も薄弱なる兒童に於ておや。其の反響の引いて道德的落武者とせしむるもの數ふるに遑なき程多くある。

△恐るべき實例

ローク教授が「麥粒程の血滴、若しくは頭腦の一骨片を取捨することに依りて、智者を愚者に、高貴なる品性を不道德者たらしめ得べし」と、彼の英國の發狂者研究をもて、有名なるホランダー博士の報告に依れば、同博士が虚言、竊盜、暴行其の他あらゆる罪惡に沈みし當年十六歲の少年の頭蓋骨の小骨片の位置を變じたるのみにて、永年の惡童をして善良なる模範青年とならしめたといふ。又喉に腺を生じたる結果、呼吸を妨げ、或は腦に影響して、心的作用鈍くなり、時には道德性の萎靡を來たしゝことも多い。近來低能兒は鼻の病あるものに多くあるとのことも、重大なる問題にあらずや。ニユー、ヨーク市の敎育監マツクスウエル氏の談に依れば、紐育市の七萬五千の小學兒童が此の種の腺を憂ひ、其の結果不快を催ふし、快々として樂まざる樣になり、遂に勉强心を減じ不義不德の衝動的作用と變ずることを發見せりと云ふ。此の腺を切開するとさまで難事にあらず、これを除去することが、學童をして幸福を感せしむるのみならず、智德共に驚くべき進步を見るべしといふのである。茲に於て母の祈禱と外科醫のナイフは惡童をして善化せしめ得ることが出來る。又一本の齒が曲がつて居つた爲め、矯正の望

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

みなき嘘言者となりし兒童あり、齒の屈曲の爲め、充分に食物を咀嚼し能はずして、そが營養不充分の原因となり、遂に惡童となりしとは、誠に驚くべきことゝ云はねばならぬ。現時都會の小供の七八分が文明病とも云ふべき虫齒痛みに罹りつゝあるを思へば寒心の至りである。世の父母は此の點に於て多大の注意を拂はれ度い。尙ほ消化不良、營養不充分、料理法の不完全、食物不良等の爲め犧牲にさるゝ兒童は年々幾萬なるを知らず。食物不足のため聽力減じ、半分聞き、若しくは誤聞を生じて、折角の敎授幷に敎訓も水泡に歸すること多々あり。昨今國中を通じての、米價暴騰の爲め小學兒童の缺席、辨當盜みの流行の如きは敎育道德、社會宗敎の諸問題に關する一大問題であると思ふ。此が救濟は一日遲るれば、一生の災である。世の父兄は當局者に迫まり、一日も早く子弟を救濟しなくてはならぬ。去る五月米國ロース、アンゼルス市に於て、生牛乳其の他に含有さるゝ結核菌撲滅運動をなしゝに市街至る所に長さ四尺巾二尺位の厚紙に一個の髑髏が赤き衣を着して、前に於かれたる茶碗より、スプンで何か吸取る樣にあしらひ、其の周圍には幼兒の玩具が散亂せる狀態を畫きて、貼付せるを予は見たるとき一目戰慄せざるを得なかつた。そは結核菌てふ髑髏が幾百千の幼兒を飲み下しつゝある實狀を一般に知らしめんが爲めである。我が國に於ても、今回の如き死活問題の起りし場合に於ては、當局者のみならず、見易き方法もて輿論を惹起することが、目今の急務ではなからうか。

△煙酒の害毒

其の他少年に禁酒禁煙の必要なることは只單に風儀及び道德上の問題にあらずして、智的方面に於ても、重要なる關係を有する。カンサス洲立農科大學の實驗に依れば、五十人の喫煙學生と五十人の喫烟せぬ學生と學力を比較研究せしときに、八割一分の不成績者が喫煙中より出でしと云ふ。又某鐵道會社

にての調査に二百人の工夫中面倒なる出來事の八割五分は其の中の三十二人の喫煙者に依りて起さるゝことを報じて居る。飲酒の有毒なるは別に喋々を要せぬ程顯著である。

△幼兒の這ふ時代に注意せよ

斯くの如く育兒のことたるや、易々たる如く見ゆれど、難中の難である。母の犧牲と微細なる親切が幼兒の周圍にとりまかれて、其の軟弱なる體質を保養するにあらずんば、幼兒の生長發達は夥しく害を被るであらう。嬰兒をして、母の溫き胸によらしめよ。稍々長じての戰ひの場所、遊びの場所なる床上に注意せられよ、幼兒が床上を這ひ廻るときの如きは母たる人の監視が大切である。幼兒が下に向きて這ふときも或は、片手をつき立てゝ、片足にて、擦る時などは、知らず知らずの間に惡習慣となり。手足の眞直を妨げて、曲がる破目に陷ることが往々ある。

米國にては、幼兒がやつと立つか立たぬ時代に、圓形のものに入れて、下部に車をつけたものにて、小兒の思ふ方面に行ける樣に仕懸けたる、見るから便利の樣なれど、近來は、それさへも多少の害あることを認められて、昨今は廢れつゝあり。小供は手に觸るゝものは何んでも口に入れたがるもの、殊に這ふ時代になつてから、壁の土とか、消し炭、其の他汚物を平氣で口にするときに、俗にはそれは癇の勢だとか虫の氣だとか名づけて一向氣の止めぬ親あることを目擊するがこれなども細心注意せねば、取り返しの付かぬ失敗を將來に及ぼすもの故、消化問題より意を注ぐべきであると思ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衣服の趣味

趣味の生活（其の二）

海老名みや子

△雑然たる今日の服裝

今日此比は衣がへの時候でありまして、誰しもあれこれと頭をなやましてをりますから、私は今回も衣服の趣味に付て申て見度いと思ひます。一體現時の日本の衣服程困つたものはありませぬ。男子も女子も一定の服裝がないといつてもよい。何もかも和洋混淆で、燕尾服の花聟樣におかいどりの花嫁樣といつた樣に人樣々の服裝であります。明治の初男子はチョン髷を切り、帽子を被り、上下を捨てゝあやしげな洋服姿と變じた以來こゝに四十幾年、女子もそれにつれて絶ず服裝の變化がありました。明治二十年比、かの鹿鳴館時代には、交際社會の方々は申に及ばず、少しく派手を好む人又は世の指導者を以て任ずる人々の中には、將來必ず洋服と變はるであらう、此不便なる日本服では體育の上に於ても、活動の上に於ても、到底他の文明諸國と肩をならべて行くわけには行かぬから、むしろ卒先して奬勵しやうと決心された人々も澤山ございました。されば古い寫眞を見ますと、其比結婚された友人中には、花聟、花嫁共に洋裝が幾つもあります。こんな調子で行つたなら數年ならずして田舍のすみ〴〵迄も洋裝婦人で充つるであらうと思はれる程で、心ある人々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はなんでも洋服の心得がなくてはならぬ、子供服位は自分でこしらへる樣にしなければならぬと急にミシンのお稽古を始めるやら、縮みのゆかたや和服をほどいて洋服に仕立直して着るやら、ずゐ分騷いだものであります。其比のことを思ひ出しますと獨りで笑ひ度くなります。極少數の女學生の外袴すらつけたことのない婦人達が、下手な仕立屋の手になつたものや、手ごしらへの服を不恰好の體につけたのですからたまりませぬ、丸で烏羽繪見たやうです。ところがどうせこれは一時の波に過ぎませんでした其後はむしろ反動の氣味で次第に日本主義か謳歌されて、優容かに女らしくの一點張で、さしもに流行を極めんとした洋服も影をひそめて仕舞ひました。其後は僅かに子供服に名殘をとゞめてをりましたが、只こゝに宮中ではずつと以前より御洋裝と御定めあつて　皇后陛下を初め奉り、各宮妃殿下女官杯洋服を召させられることになつてをりまして、我ら民間にあつても近比歐米との交通益繁くなるにつれ、或は良人とゝもに又は單身往來する人々も不尠出來て參りますので、從つて一部の人々の間には自然に洋裝の習慣や智識も出來まして、好みや着こなしもよくなるにつれ、見る人の眼にもをかしからず映つる樣になりましたことは事實であると思ひます。されば私共現時の日本婦人の服裝は一部は洋裝で大部分が和裝で兎も角も兩方用ひられて居ると申さねばなりませぬ。マア男子が洋裝七分に和裝三分なれば、女子は洋裝一分に和裝九分といつた樣な割合でありましやう。子供服はどうであるかと申ますと、男兒が洋服和服五分五分とすれば、女兒は二分八分かもつと少いかも知れませぬ。女兒の方は筒袖や元祿に袴を裾短かに着なして、黒の靴下をニユーツト脛から見せて、活發さうに歩いてる處、マア洋服まがひとでも申たらよからうと思はれます。けれどもこれは・學校服で餘所行きの服裝は又別であります。引ずりさうな振りの袂に、巾廣の帶を高く〵とおやのじにしめたお孃樣姿は又別物で、學校服丈で滿足して居

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る子供も親達も恐らくなからうと思ひます。たまに洋裝ばかりで押通してる人々もありますが、十二三になるともう不便を感じ初めてそろ／＼和服に改良しかけます。サアさうなるとこれ迄のものは殆ど下襦袢位しか用ひられませぬ。そこで誰しも考へます洋服もよいがあとで困る、日本服なれば單身の古ものでも何かに用ひられるが、洋服のお古は殆ど其利用の道がない。いつそ十一二才からさきは和服にしておかうと、かう大ていの人は考へますので、どうしても洋服ばかりでは通せませぬ。ア、現時の服裝は何んといふ復雜なものでしやう。

△夫の洋服を調へんとする時

それで私共主婦たるものはこれらの樣々の服裝に付てどれ位の智識と趣味があるでありましやう。マア試みに、こゝに主人の洋服を新調すると致しましやう。今日の處では和服は無論奥樣のお見立てゝ、洋服は旦那樣御自身でお見立てになる樣でございます。といふものは和服に對しては其趣味智識が充分發達して居るが、洋服に對しては、これ程廣く用ひられて居るにも拘らず、婦人がそれに對する趣味智識がまだ／＼幼稚であることを證するのであると思ひます。宅の主人の樣に全く衣服に無頓着の人は何が何やら一切おかまいなしですから、いやでも私が仕立屋と談合せねばなりませぬ。其時／＼に私はいつでも感じます、自分は洋服に對しては何んといふ無智無趣味であるであらう。ズボンにはどういふ縞柄がよいとか、オバコートにはこれがよいとか、この切には多少綿が交つて居るとか、或は丈夫だとか弱いとか、やつと仕立屋の說明を聞いて幾分分るのであります。從つて其手入、保存法等、不注意たらたらで、ともするとズボンがのびてるのやボタンがとれてるのに氣付かないで、サアといつてあわてるどがしば／＼であります。無論私の樣なお方ばかりではおありになりますまいが、槪して和服に對する程趣味智識が發達してをりませぬとして見ますと、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第一經濟の點に於て、第二不似合なものを着用せねばならぬといふことに於て、其他いろ／＼の損をせねばなりませぬ。

△子供服の智識と趣味

男子服にはまだ男子自身の考へも加へて貰いますから幾分責任が輕いといひ遁る道もありますが、子供服に對しては全く母親の責任で、其無智無趣味なるが爲に、尠なからぬ代金を拂つた上に、色の不配合や形の調はない爲に、丸で玉のりのお手傳ひかと思はしめる樣な風をさせることがあります。一寸したことの樣ですが、之はよく考へねばなりませぬ。誰しも我子を出來る丈け可愛くして見たいといふは親の情であります。今日お隣りの花ちやんが洋服で可愛いかつたから内の美い子にも着せてやりましやうと洋服屋の店頭につるさがつてる出來合を着せて見て、アゝこれが丁度よいなぞいひ加減なお見立てをして嬉しがつて連れて歩かされた子供こそよい迷惑、實の處折角の可愛い子もとんだ滑稽なおつくりをさせられてるのであります。私は子供服は下のすぼまつた不活發の日本服より下廣がりの洋服の方が慥かに子供によく似合てよいと思ひます。出來ることなら十二三才迄は洋服にして置き度いと思ひますが、さうするには第一母親が其れに對する一通りの趣味と智識がなければならないと思ひます。西洋人の子供を御覽なさい　割りに廉末な品を使つて可愛く、うつりよくこしらへてございます。私は見る度に感心致します。日本人は無暗に子供に贅澤な身なりをさせる癖がありましてやつとおあんよする位の子に友禪縮緬の二枚重ねに紋縮緬のおしごきなぞを房々とさげて、抱たり負つたり、お涎でよごしたりしても當り前の樣に思つて、左まで惜しいとも思ひませぬ。實に勿體ないはなしで子供も有難迷惑なわけであります。有福な家で七五三のお祝ひ着なごにお金をかけることは實に馬鹿らしい樣で、丸で子供を生きた人形と心得、親達がそれを飾つておもちや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にしてる樣なものであります。これは誠に間違つた考へで、小さい時から着物に澤山のお金をかけたり贅澤ななりをさせたりしますと、年比になつて益々其習慣が增長して、衣服に浮身をやつす樣なヴァニチーの化身を作り出す恐れがあります。聞所によりますと西洋では嫁入迄の娘には極めて質素な身なりをさせてあるさうですが、我國でもせめて十五六迄は可成活發な質素な風に育て度いものです。着物の着こなしなどは、十七八からそろ〳〵敎へてもよからうかと思ひます。一面から申ますと日本は外國に比して着だをれの方であると思ふ程、衣服には金錢も費やし、頭もなやましてをりますが、其割に其趣味が發達して居るかどうかは疑問であります。殊に子供服に對して今少し母親に趣味があつたならば半分の費用でもつと可愛ゆく見せることが出來樣にと思はれることが度々ありますが、わけてもお晴れ着よりも不斷着に對して、其柄や仕立の恰好に注意し度い者であります。洋服を着せ度いと思召す方は仕立屋にばかり賴まないで、簡單なものは自身でやる位の心がけが必要であります。お子さんのおありになる西洋婦人に御知り合があれは其方に御相談になるに越したことはありませぬが、若しなければ委しい方におきゝになつて、仕立の方もおならひになつて、御自分で手がけてごらんになるとちよつと人樣のを見ても其よしあしや柄にもお氣が付く樣になります。さうすると洋服の趣味が段々發達して參るであらうと思ひます。和服はなれて居るから大人服の仕立ての出來るものは子供服はなんでもないと、別に一つ身四ッ身のたち方位で、其寸法や仕立樣なぞにはさまで注意を拂はない癖がありますが、大人服こそ大抵形がきまつて居ますが、子供服は其年齡により、體格により、臨機應變、其恰好を變へて行かねば眞に似合ふ樣には出來ないものであります。近比元祿袖が大流行でありますが、よく氣をつけて御覽遊ばせ、其元祿の袖の丸みですら一定のよい恰好ばかりには出來てをりませぬ。子供の着物は眞に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恰好物で、恰好一ッで其子を可愛くも醜くゝも見せます。柄や色合なども其通りて、同じお求めになるのなら、其子に似合ふ柄で可成は洗濯もきゝ持ちのよいもの、そして値も割にお安いもの、これが眞にお徳用な品であると思ひます。多くの品物の中から三徳四徳揃つたものをさがし出すにはよほどの智識と趣味がなければ六ケしうございます。段々細かく申せばきりはございませぬが

△發展の餘地ある所に興味あり

要するに我國今日の如き和洋混淆雜然たる衣服制度の下に於ては、主婦たるものはよほど注意致しませぬと頭が混亂して、趣味も發展せず、經濟にも無駄を生ずることが多いと思ひます。が、一度意を用いて見ますと其雜然たる處に發展の餘地があつて實に面白いのであります。そして私の願ふ處は先づさし當り子供服に特別に注意をして頂き度い。洋服ならば洋服、和服ならば和服で、いづれにせよ趣味も智識も大に養はなければなりませぬ。つゝまる處經濟的で、衛生的で活潑でそして可愛らしくきれいに見ゆる樣にしたいものであります。お若い母樣方にお願ひ致します、これは是非お若い方々に、改善をはかつて頂かなければなりませぬ。皆さん方が少し心をお用ひになりましたならば、家の中も街頭も、學校も幼稚園も今日よりももつと、もつと、可愛い子供で滿ち充つるであらうと思ひます。返す〴〵も趣味と贅澤と、質素と非美術的と混同しない樣にお考を願ます。

（つゞく）

新刊紹介

△赤坊を泣かせずに育てる秘訣　羽仁もと子著

赤坊の泣くのは全く間違つた取扱ひから來るのであるとて、自家の實驗上より、授乳のしかた、入浴その他毎日の手數、襁褓の事等を問答體に、極く解り易く述べたものです。もしこの小册子によりて、赤坊を泣かせずに育てる事が出來たら、母親にも赤兒の爲めにも、どんなに幸福な事でありませうさ。世の母親たる方々に一讀をお勸めいたします。發行所　東京小石川區雜司ケ谷町一一九婦人之友社、定價金拾八錢

安價の滋養品

手塚かね子

△魚肉に比敵する滋養品

我が國一般の人々の食膳には蛋白質と脂肪とが不足して居ります。これ等の成分は勿論魚肉類に一番多く含まれて居りますが、もつと安價にこの成分を取るにはどうしたらよいかと申しますと、魚肉類に殆ど比敵するほど蛋白質を含んで居るのは大豆で、百分の十七乃至三十二を含んで居ります。魚類は百分の二十三或は四が普通で、肉類は三十乃至四十でありますから、比例から見ると勝るとも劣らないのでありますか、只動物性の蛋白質と植物性のそれとを比較して見ますと、植物性のは少々不消化であります。然し筋肉をよく働かせる人々ならば、消化力は自然強う御座いますから、少しも差支へありませぬと思ひます。

大豆の製作品としては御承知の豆腐、油揚、湯皮黄な粉、納豆、味噌等があります。湯皮は割合に消化がよろしう御座います。味噌は成分か變化して居るとは申すものゝ、やはり滋養ある食品と思はれます。豆腐粕は、用ひぬ方がよろしく、滋養は殆どありません。

△之れに次ぐ品々

大豆に次では豆類一般がよいので、菜豆、豌豆、蠶豆、小豆、落花生等よろしく、殊に落花生には脂肪が多く含まれて居りますから、潰して磨り、バタの代りにパン等に付けると甘味しう御座います。

次には蕎麥粉がよろしく、蕎麥に打つては消化が餘りよろしくはありませんが、蕎麥がきは大層よろしいさうです。その次が小麥で、饂飩などは勿論よろしいのです。饂飩粉から出來る麩もよろしく、生麩は消化よく滋養も麩よりは多いのです。

野菜の中では干瓢が一番蛋白質が多く、慈姑、栗、百合等が之れに次ぎます。然しそれでも百分の三或

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は四を含むのみであります。お菜の類は僅に百分の一を含むのみであります。

△料理法の一二三

右の材料は在來の料理法によるのが一番世話もなく、味も最もよい樣であります。只一二手輕なものを擧げて見れば、

大豆を二三日水につけて充分軟くなつたのを見計つて水氣をきり、三杯酢にすると一寸氣の利いたものになります。和布のある頃はこれに交ぜれば猶よろしう御座います。此場合大豆を茹でると豆臭くなつていけません。

なほ支那料理でいたしますが、豆、推茸、人參、里芋を輪切りにしたもの等を先づ油でいため、醬酒砂糖にて味をつけると、誠に結構です。凡て植物性のものは胡麻の油がよろしう御座います。また豆は豚の肉や竹の子と合ひます。堅いもの故、凡て堅いものと合ふやうです。

その他油揚の附燒などは結構なものです。程よき大さに切り、魚串にさして二度斗り火に炙つては砂糖醬油をつけるとよろしう御座います。

湯皮と茄子とはよく合ひます。秋茄子を輪切りにし、味淋と鰹節にて湯皮を入れて煮、軟かになつた時、醬油を入れるとよろしい。

菜豆で思ひ出しますが、ボストンにボストン、ビーンといふ名物料理があります。そのビーンは日本の丁度小粒の菜豆とよく似て居りますから、之れを代用するとよろしいと思ひます。先づ豆をよく煮てその中で殊更に脂の多い豚肉を二寸四方位に切つて入れ、よく／＼煮てから豆にてりが出るやうに、わざと赤砂糖（花見などよし）を一寸入れ、鹽にて味をつけ、素燒きの瓶に入れてストーブに入れてよく燒くのです。さうすると上に薄皮が出來ますが、風雅なもので、且つよく持つ料理故、ボストンでは大抵の家で七曜に拵らへて、日曜の馳走にし、殘ればまた次の日にいたゞきます。素燒きの瓶の代りにパイ皿に入れて燒いても結構に出來ます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

幻覺

久野恭子

八千代には、一つの深い、幻象にも似た思ひ出が有る。其は繪と云はうか、景色と云はうか、それよりも心持とでも云はうか、八千代は或るものゝ光景と、それを見た時の心持と、此二つのものが融け合つて一つの繪に成つて、自分の身の內の奧深い所に藏はれて消ねないのだと思つて居る。

うら若い八千代が、今よりももつと前の事で有るから、未だほんの子供の域から脫け切らない、漸く少女の域へ片足を入れ掛けた時の事で有つた。八千代は父と母と云ふよりも、病氣に成つた父と一緒に母に連れられて、札幌の町の外の番外地と云ふ所に暫く住んだ事が有つた。

八千代は札幌を忘れる事が出來ない。其土から離れて幾年か經つた今も尙、札幌とし云へば既に八千代の胸には、斯う懷しい樣な、情けない樣な、一種混亂した心持が一杯に漲るのである。

家を支へて行く力の中心に成るもの、扇で云へば要で有る父親が病み臥したと云ふ事、それに伴つて起つて來る種々な事から子供心にも浸み込んだ情けない心細い念、無論それも有る、がそれ許りではない。其處に行く迄、東京の割に切り詰つた、洗練された空氣の中に生ひ立つたのが、始めて大陸的な札幌の土を踏んで、何處かかうのんびりした、ラッフ(Rough)な香りを帶んだ空氣に觸れて、未だ曾つて見なかつた種々な現象を見た八千代の胸には、忘れ難い印象が殘つたので有る。

東京から小樽へ往つて直く病氣に成つた八千代の父と母と八千代は、お父さんの若い時からのお友達の田中さんと云ふ人と、東京に居た時から知つて居た八千代が三池の小母さんと言ふ人に呼ばれて札幌に移つた。

番外地の家は三池の小母さんの持つて居た家で、八疊二間に六疊との三間で有つたが、東京の狭い臺所を見なれて居た八千代には、廣い臺所の眞中に、大きい爐の切つて在つたのが珍らしかつた。椽側は東京のそれの、倍も幅が廣かつた。

冬の間消えないと云ふ雪を初めて見て、ヒユー〳〵と云ふ吹雪に身體を吹かれた八千代は、心迄も薄ら寒くほの暗い樣な、頼りない氣に成つて、かすかに顫へた。

「お母さん、東京へ歸りませうよ」お母さんの肩に掴まつて覗き込む樣にかう言つた八千代は、お母さんがいぢらしさうな眼で自分を見て默つて居るので繼ぎ穗がなくなつて、隣の八疊に寢て居るお父さんの方に眼を遣つた。青い顏をした鼻の高いお父樣は心持首をねぢつて靜と此方を見て居たが、八千代が振り向いて二人の眼が合ふと、直ぐ顏を仰向かせて眼を閉つて了つた。

「何時迄も此處に居なくちや不可ないの、え、お母さん。」

「えゝ、お父さんの御病氣の御癒りに成る迄ね。」

「札幌の町の内なら、もう少し寂しかないでせう。」

「八ちやん、そんな事を言ふものじや有りません、此の御家だつて三池の小母さんの御親切に借して下さつたからこそ入つて居られるのでせう。お父さんが御病氣だから何んでも思ふ通には出來ないのが、八ちやんには分らないの、其位の事は「八ちやんにだつて分らなくちや成りません。」

八千代は母の肩から手を離して、涙組んで、默つて居る。

こんな、頼りなげに顫へて居る樣な、みじめな印象が、八千代は早く忘れて了ひたい。こんなの早く

忘れて了ひたいが、八千代は札幌での、田中さんの長女のお須磨さんと自分との間のスウキートな、深い、そして無邪氣なフレンドシップの情調は忘れたくはなかつた。

番外地へ來てから、一人も自分の周圍に、色彩の同じなカンパニイをもたない八千代は、たまに町へ出て、田中のお須磨さんに逢ふのが甚く嬉しかつた大樣で氣立の好いお須磨さんが此上もなく好きで有つた。お須磨さんもまた、外に幾ら妹もお友達も有つても、寂しい八千代がお須磨さんを懷しがつて求める心と同じ程度に、しつくりと、八千代に思の丈を返した。

お須磨さんには、玉ちやんと云ふ二つ違ひの妹が有つた。八千代が田中さんへ行くと、毎時も此三人で遊ぶのであつたが、八千代とお須磨さんは同年のせいか殊に仲善で、何事にも、二人の胸には共鳴を起す事が多かつた。二人は玉ちやんを其方除にする氣はちつともないのであるが、知らず／＼の中にさうなると見えて、何うかすると玉ちやんは、焦れて泣き出した。

札幌を離れて、北と東へお須磨さんと別れて、二人の間には海も山も川も有る樣に成つてからも八千代のお須磨さんを思ふ心は變らなかつた。夜さり、八千代の夢にお須磨さんが入ると、朝に成つてから、昨夜はお須磨さんも自分の夢を見はしなかつたかと思ふ事も有つた。其後お須磨さんが不圖病氣に成つて、ふくらかな蕾に蟲が喰入つた樣に病院のベッドの上にうなだれて、其大樣な若い魂と痩せた身體とが離れ／＼に成つてからは、一しほお須磨さんが戀ひしくつて、二人の間に、あの甘い美しい情調を、現實に於いては、またと繰り返す事が出來ないと思ふと、八千代は取返しの附かない樣な、遣瀨もなげな苦痛を覺えるので有つた。

眞白い雪の中に離れ／＼にチラホラと家の見えて居る番外地へ、始めて來た時には、東京へ歸らうと言ひ出した八千代も、暫くする中に漸く頭の中に、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あきらめの氣分が動いて來た。雪に對する不安も恐怖も餘程薄らいて、スコツプやショーベルを持て雪と親しむ樣にすら成つて來たのである。

八千代のお父さんの病氣が癒り掛けに向いて來た頃、不圖、或る美しい現象が、八千代の瞳に、心にかすかに映つて來た。

被衣の搖ぐすき間から、白いなよやかな女の手の指がほの見えて居たのが、次第に、なだらかな肩の曲線が見え、細い首筋が見え、可愛らしい腭から紅梅を含んだ樣な唇、遂には、全身の美の焦點である大きい眼が出た時、纏つた被衣を搔い遣つた、其艶な容姿を全く現した麗女の樣に、丁度其樣に、此美しい現象は一日〳〵と次第に八千代の前に、姿を見せて微笑んで行つた。

それは Spring-time has come. 春が來たので有る。

上野と隅田川にしか春を知らなかつた八千代の眼に、美しい札幌の郊外の春が映つたので有る。長い冬の間雪に埋つて居た八千代には、札幌の春は云ひ知れぬ歡喜で有つた。

或る日、田中さんの家へ遊びに行つた八千代は、お須磨さんと斯んな話をした。

「お須磨さん此間ね、未だ少し雪の消え殘つてた時私裏の林檎や梨の木の下を歩いて居たのよ。そうしたら雪の下から何んだか圓るいものが見えたので何かと思つたら大きな西洋梨なの、急いで家へ馳けて入つて、母さんに見せたら母さんね、去年のだらうけど雪の下に居たからちつとも腐つて居ないつて皮を剝いで下すつたのよ、美味しかつたの、だけど、八千代不思議で耐らないわ、だつてちつとも梨の肉が氷つて居ないのよ、人間なら彼樣に長く雪の下に居たら、凍へて死んじまうはね。」

此時迄眼を見張つて八千代の話に聞入つて居たお須磨さんは、

「あら八っちやん、雪の下は反つて暖いのよ」。

「さうなの」、と八千代は何處やら合點の行かない顏をして居たが、やがて思ひ直して、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「お須磨さん、來らつしやらない。一所に菫を摘んで花束にしませうよ、彼の林檎畠の奥の岡ね、一杯咲いてるのよ、土筆ん坊や蕗の臺は困る程有るのよ。」

「摘んでも叱れないの」。

「え〻、三池の小母さんがね、斯んなに澤山有るから幾らでも御取りなさいつて御言ひになるの、だから玉ちやんと二人で入らつしやいな、八千代待つてるわ」。

「え〻」、とお須磨さんは點頭いて

「林檎の花も咲いてるでせう」、と聞いた。

「え〻、奇麗に咲いて〻よ、眞つ白い花瓣にポーウッと薄桃色がさして、櫻よりも奇麗ね、八千代始めて見たわ、林檎の花つて」。

「あら東京に林檎の花ないの」、と玉ちやんが側から不思議さうに口を入れる。

「え〻、林檎なんかないのよ、櫻ならごつさり有るけど」。

八千代には、斯う云ふ札幌の思ひ出が有る。が、是等は皆、悲しいとか嬉しいとか云ふ情緒の中に屬すべきもので有る。尙八千代には、さう云ふ悲しいとか嬉しいとか云ふ感情を超えたもつと深い、た〻ハアと息を吐く樣な、放心の境に入る樣なものが一つ有つた。

八千代が其を見たのは、好きなお須磨さんの家へ行く途中であつた。

前の畠から雲雀が空へ揚る頃、八千代は番外地から町の方へ歩るいて行つた。丁度町と番外地の中央迄來か〻ると、道の左側の方でチラリと八千代の眼に鮮な色彩が映つた。見ると、今迄氣に留めなかつた所に少し引込んだ家が有つた。家は普通の家で有つた。平家で、屋根の瓦に草や苔が生えて居た。家から門迄の細長い空地に花壇が有つて、チューリップの花が一杯咲いて居る。鮮に眞赤いのや、黄の斑點の入つたのが、可愛らしさと、嬌かしさと、二樣の意味を匂はせて、剰へ、見るもの〻意力を蕩かす

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

あやしい妖術使ひの様なほのめきをさへもつて、ボウーッと夢の様に開いて居た、それが、花壇の兩側の門へ出る小徑に迄、彼方此方と可成り混み合つて咲いて居るので有る。

八千代はじタリと、引着けられた樣に其處へ立つて、今の今迄種々な事を考へていた頭をすつかり空の樣にして、ボウーッと夢見るさまにたゝずんだ。

家へ歸つた八千代は、上氣した樣な顔でお母さんの前に座り込んで、

「ね、お母さん御覧に成つて、彼のチユーリツプの咲いて居る家を、ほら、町へ行く道の左側にあるでせう、御覧に成つて。」

「何あに八ちやん、チユーリツプの咲いて居る家なんて、母さん見ませんよ。」

「あら、お母さんは一昨日も町へいらつしつたのに御覧にならないの。」

「左側にチユーリツプの咲いて居る家なんてないじやないか。何の邊なの。」

「丁度、町と此處の間頃よ。」

「何を御言ひなのだえ八ちやんは、彼の邊なら家なんて一軒も有りません、屋敷の樣な處ならあるけど生垣で内はよく見えないじやないか、夢の樣な事を言ふ人ね八ちやんは。」お母さんは窶れた樣な顔に笑を浮べた。

八千代は笑はれて不平であつたが其儘何にも言はずに、考へ込む樣な眼をして默つて居た。八千代は其からも一二度其處を見たが、チユーリツプは、鮮かに、夢の樣に咲いて居ても、あの平家からは、人も出て來ず、物の音すら聞えなかつた。それでも、窓には雨戸ではなく障子がはめてあつたので有る。

人も出て來ず、物の音も聞えなくつても、まるで閉め切つてない彼の家には誰かが居るに違ひない、何んな人があのチユーリツプと一緒に生きて居るのだらうと思つた。八千代はお須磨さんとも、其家が有るとかないとか言ひ合つた。さん／＼言ひ合つてからお須磨さんは、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「をかしいわ、八ちやん貴女何うかしてゝよ」。と笑つたが、助勞る樣に兩方の腕を掛けて八千代の肩を抱いて、

「宅のお母さんが言つてゝよ、八ちやんのお宅ではお父さんが平常からお弱いのに今度はあんなに甚く病氣をなすつたし、八ちやんも餘り御丈夫ではないから、八ちつんのお母さんは心配ばかりなすつてゝほんとにお氣の毒だつて、だから八ちやんがそんな變な事をお言ひになると、八ちやんのお母さんは心配なさるわ」。と言つた。

「お母さんも見ない、お須磨さんにも見えないのに自分に丈見えた彼の家には、誰が住んで居るのか、自分と何か深い關りのある人なのではなからうか、それにしても彼の樣に花壇の外の兩側の小徑に迄も咲いて居ては門迄出て來るのに困るだらうと思つた

札幌を離れて幾年かに成つた今も、八千代は折々夢の樣に、幻の樣に、彼の平家と鮮な色の花とを見る。それは八千代自身が心の奥底から取り出して見る時も有つた、ひとりでに現はれて來る時も有る。いづれの場合にも、其の幻象を前に於いては、八千代はボウーッと上氣した樣な心持に成つて、終には「ハア」と深い息を吐かなければ成らなかつた。嬉しいのか悲しいのか分らない、たゞ何かなし其幻象と自分とは離れ難いものゝ樣に思はれる。時には自分自身の影の樣にも思ふ事も有つた。彼チューリップの家は今は幻覺である、幻覺にも似た思ひ出で有るが、彼の時は八千代は確に見たと思ふのに、お母さんも見ないと言ふ、お須磨さんも見ないと言へば、身體の弱い八千代の眼に映つた幻覺に過ぎなかつたのかも知れぬ。

だが八千代は、一度ならず、二度三度迄も見た確な事實だと思つて居る。事實と、それを見た時の心持とが一緒に成つて身の内に潜んで、時折の幻覺になるのだと思つて居る。

時々、チューリップと一緒に生きて居る人は、何んな人であつたらうと考へた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

◎九月十八日の日記

笠間しのぶ子

今日は乃木大將及び其夫人との二つの柩の青山に運ばるゝ日なりと聞けば、せめても其時を覺えて遥に御柩を送りまゐらせんと、一人机に座せば弱き女心の定まらぬ思、亂れ〳〵て涙となり、祈となり、果ては、訝しき寂寞、戰ける我心を威嚇して、我はこゝ大久保の里灰色の雲に包まれたる默思に堪へかたくぞ思へき。程經て都より友の訪ひきて、その見聞きせる樣を語る。我は事の餘りに、みにくゝも騷がしきに、ひたすら驚けるなり。

君のみが持ち給ふ純潔なる信念の中に、靜に死に就き給ひし、悲しくも貴き君の死がかくばかり都路の塵埃騷ぎ立てんとは、ア、君には夢にも思し召さざりしならん。

新聞の傳ふる所によれば感激して又其後を追うて自殺せんとせる人なり。冷嘲して不忠不義の臣と責められし人なり。感泣せざれば大和民族の母にあらず、奮激せざれば日本男兒の父にあらずと、知らぬ間に世の規則定まりたればにや、我も〳〵も忠臣義士にならんと競ひゆくとかや。今もし乃木大將此樣を知りまさば君にとりては堪へがたき生をもなほ忍び給うて、死の平安に入り給はざりしならんとも思はるゝなり。

ア、悲しくも貴き君が死かな。天を仰ぎて曇なく地に伏して影なき君が心、誰がよく之を知るを得べき。唯濁りなき大將の貴き血のみ永久に默して之を守る。

世にときめき給ふ方々の論じ爭ひ給ふ限りにあらざる樣に覺ゆるなり。

永遠に眠りて語らざる大將の御魂君が生前の愛友たりし無名の兵士、忘れられし廢兵の心の中に限り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なく在さんことを祈る。

◎近きにもとめむ

茅　野　雅　子

私達の求めて居るものは却て手近にあるのではあるまいか。私は近頃になつて屢々斯ういふ考を繰り返して居ります。

「新らしい女」「新らしい生活」言葉を違へて云へば「生活らしい生活」又は「生活の奥深い意味」そういふものを私達は餘りに遠い高い處に置いて考へて居たやうです。そこへ達するには今迄の女の夢にも思ひつかなかつたやうな非常な行動を敢てしなければならないし、またそういふ激烈な行爲に出づるとが唯一の解決の道であるやうにさへ思つてみました。併し靜に考へて見ると案外手近な處にあるのではないでせうか。

都會の瓦屋根の隙間に生へて、白く燃える日の光に乾き乍らも、尙敬虔な小さい花を開いて、夕ぐれ毎にはそれでも微かにうるほひを帶びて、生命の喜びを讃美してゐるやうな、あの屋根の草の生活、そういふ果敢ない現象の中にも、心を止めて見れば、高い山に登つたり廣い野を歩いたりして感ずると同じやうな、自然の深い意味をば發見することができるではありませんか。結局私の痛切に思ふのは此處にあります。

新らしい生活といふのは必らずしも新らしい行爲といふとではありません。寧ろ自己の周圍の現象が自分の上に投げかけて居る影像の中から、新らしい意味を掴むといふところにある。二階の窓から見ると、隣の屋根に草が生へて居る、それは誰でもよく接する光景である、それを私達は何の氣なしに見ていつか忘れて了ふ、云はば萬事が此の通りである。どんなに貧弱に見へる生活の中にでも仔細に觀察すれば新らしい經驗は刻々に重なつて居る。唯々人々はそれを空氣のやうに觀過して了ふのです。それを掴へて深い意味を訊ね、遠い心を味ふといふことが

やがて私達の新らしい生活の窓を開いて行くことではないでせうか。換言すれば、私達の外部生活を今迄よりは最つと強く私達の奥深い内部生活の上に反射させて見る。それが眞實の生活らしい生活ではないでせうか。外部生活が絶えず内部生活を培つて居ることこそ恂に「生き甲斐のある生活」ではないでせうか。華々しい外部生活も異常な行爲經驗も内部生命の上に何の爪跡も殘さずに了ふやうでは、顧みて「生きた」やうには思はないことでせう。譬へ一疋の蟻が砂の上に斃れて居たといふやうな些細な事でも何うかすると一生を支配する力を持つまいものでもありません。

私の心は此頃だんだん斯ういふ方へ傾いて來ました。そうして今迄平凡であつた自分の生活が幾分かづつ新味を加へて行くやうに思はれます。それで敵のやうに考へて居た古い習慣や道德に對しても、すつと同情と理解のある態度に出ることが出來るだらうと思ふのです。空疎な「突飛」や「異常」や「英斷」よりは私達は靜かに手近な日常生活の中に「新らしい生命の泉」をたづね當てたいと願ふのです。

◎寄宿舍の日曜の夕

内田文子

夕食の時校長が食堂に來られ、今夕の集りは生徒の集りにしたいから、夏休にした事感じた事等を話す樣に準備せよ、そして今日は主として普通科の生徒が話さるゝ事を望む、と申されました。

やがて七時のベルがなりますと、寄宿舍の先生や生徒は樂しんでパーラに集りました。讃美、祈禱がすみ、誰が御話になるかと待つて居りますと、二年生の小さな一人が勇氣を出して無邪氣なる聲で話し始められました。

「私は此夏休に一つ欲しい物があり、其物を得樣と思ひ、夏中あちこちさがし歩きましたが、遂に見あたりませんでした。お休がすみ、仕方なく再び學校に參りました。そして昨日土曜日なので、内に歸つ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て見ますと、お母樣が、その私がほしがつて居た物をさがして買つて置いて下いました。私は其時ほんとに嬉しくてたまりませんでした。神樣は丁度母の樣に私共の入用な物を皆よく御存じていらつしやいまして、祈つて待つて居ますと、いつの間にか與へて下さいます。そして神樣の下さいますものは、母から頂く物の樣なお金で買へるものよりは、遙かに勝つた貴い物を澤山下さいます。

年若き姉妹の心に、母の情を通して、眞直には入つた神の愛を想像し、一同喜こんで耳を傾けました。

次にはまた一人が起つて、海邊の波の常に新らたな元氣に滿ち、倦み疲れぬ樣に、自分共も新らしい學期を迎へたいといひ、また他の一人は夏休中約翰傳十二章二十四、五節の一粒の麥の敎訓に非常に感激した事や、互に包む所なく所感を述べ、最後に專門部の一生徒は次の樣に話されました。

「明治天皇崩御遊ばされ、國民の熱誠につき種々感心いたしましたが、一つ感心の出來なかつた事が御座います。それは先達各學校にて歌ひました奉悼の歌に含める精神で御座います。あの歌を見るに一節の終りに「世は闇とこそなりにけれ」二節の終りも亦「泣けど叫べどそのかひもなき今日とこそなりにけれ」とあり、少しの望も感謝もなき樣に見えます。何故かくも立派なる　陛下を我國に與へられ、四十五年も治めて頂いたことを一言なりと感謝せぬのでしよう。又陛下は今此世を去り給ふとも、猶生きていつくしみ給ひし民草を靈界にて永遠に導き敎へ給ふ事を信じられないのでしようか。又たとへ　明治天皇は逝き給ひしも、神は新帝陛下に惠を下し給ひ、更に立派なる政事をなし給ふやもはかられないではありませんか。あの歌を見ると同時に、テニソンの詩を讀みました。英國のかの名高きウエリントン公の死した時テニソンは「その與へぬしに感謝せよ」と申して居ます。私共にも此精神が必要であると思ひます。云々と。かくして私共の寄宿舍の家族の樂しく暖かな集りは多く敎訓を與へ感謝の間に終ました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事其折々

記者

明治天皇御大葬

明治天皇の御崩御を悼みまつりてより、早や四十餘日を經過せし大正元年九月十三日、青山が原に於て御大葬の大典が行はるゝ事となりました。午後八時と云ふに、御靈柩は七十八對百五十本の長柄の松明に照されて、靜々と二重橋の御正門を出でました暗に輝く松明の炎、衣冠束帶、帽影劍光、文武の百官粛然として之に扈從して奉送せる有樣、誠に神々しき極みにて、今更の如く皇室の御稜威の高さに打たれた事で御座います。

是より先、天皇、皇后、皇太后の三陛下及び皇太子皇子内親王の各殿下には、御正門まで靈轜を奉送あらせられたる後、御先着の思召にて直ちに青山の齋場へと御行幸啓遊ばされたのであります。

御道筋は表弔装飾遺憾なく施され、殊に二重橋から馬場先門迄の間には根越榊十對と、榊と榊との間には瓦斯を利用した篝火二十對をしつらひ、其篝火の後部には、更に十對のアーク燈を點じましたから、其附近一帶は眞晝のやうに照り輝き、何とも云ひ難い清淨の感じを與へました。馬場先門からは二十間置きに高さ三十尺の柱頂に、千二百燭光のアーク燈を點じました。又其間には黒白の布をまいた柱から幡旗を吊し、中途を綠葉の環で絞つたものを建てました。之等の装飾は東京市によりて準備されたものでありました。

御先驅は安樂警視總監及び警視廳警部之を承り、次に騎兵、軍樂隊、陸海軍の儀仗兵略二個聯隊、次に松明や四十人の仕人によりて奉持された鼓鉦、黄白二十旗の御旗、箭、弓、楯、鉾の次には鷹司祭官長續いて鈍色布衣の樂師二十五名哀音嫋々たる道樂を奏しつゝ進む、其次にこそ副牛本牛五十八人の八瀬童子によりて目も覺むる許りの靈轜は徐々として通御遊ばしました。今や通御ぞと何となく躍る胸を押し靜め眺め奉れば、煌々の電燈も暗の色に染まりて未明かならず、唯金色の光輝の丈け高き靈轜に閃々たるが

いと目に立ちて拜觀されました。而も此際忘るゝ事の出來ない印象を與へられましたのは、緩かに廻轉する鑾輅の轍より回轉毎に洩れ出づる一種美妙の哀音で、寧ろ原始的な道樂よりも遙かに增した哀痛を感じさせられましたので、沿道悉く歔欷の聲に充ちました。

轜車には侍從元帥大將等從ひ奉り、天皇陛下御名代の閑院宮載仁親王殿下、陸軍中將の御正裝ながら愁然として御徒步遊ばさる、有樣かしこくも亦悲しい事で御座いました。其後には大喪使總裁伏見宮貞愛親王殿下衣冠素服に劍を帶び左手に桐杖を執らせられて從ひ給ふ。百官有司數千人、之に續き、最後に英國水兵海軍々樂隊同儀仗隊警視警部八騎で、振古未曾有の一大葬列は終つたのであります。葬列の全長一里半、先驅が靑山葬場に達した時後殿の儀仗兵はまだ馬場先門を出でなかつたと云ふ事であります。

靑山齋場の御模樣は、私共の拜觀する事は出來ませんでしたけれども、新聞紙の報ずる處によりますると眞夜中の十二時に靈前の幔門が開かれ、各親王殿下同妃各殿下を始め、天皇皇后皇太后御名代順々御着席に相成り　天皇陛下の右方には獨逸皇帝御名代ハインリッヒ親王殿下英國皇帝御名代コンノート殿下其他十六個國の御名代及び使節等が着席され、左方には大勳位元帥大臣文武の百官、所謂綺羅星の如く居並んだ樣子で御座います。種々なる御儀式があつた後　天皇陛下は恭しく御靈柩の前に玉步を運ばせられ、諸員起立最敬禮の裡に、御誄を奏せられたる後順を追うて禮拜を終り、一聲喇叭の號令と共に一齊起立の禮拜を以て御斂の大典は玆に滯りなく終結致したので御座います。

御靈柩は其儘直ちに靑山停車場より靈柩列車にて伏見桃山に移御に相成りました。御着の十四日午後五時十分には折柄悲風痛雨降りしきり、空も亦聖帝を葬るの悲しみに堪へぬげに思つたのでありませう、此處にても種々御儀式御執行の後、靈柩は鋼索の力にて徐ろに壙底なる御石槨内に奉斂したのであります。斯くて明治天皇の御靈は山淸く水明かなる桃山の地に永久に眠らせらるゝ事となつたのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編者より

夏野の終りを彼岸花の點々と紅に染むるも、及に伏しゝ人の血かと身のをのゝかるゝ十九日、乃木將軍の墓前に詣でゝ、偉人烈婦の悲しき最後を弔ひ、願はくばその死より受くる正しき感を得べく沈思せまほしと思ひしを、墓畔はさながら縁日のやう、人出夥しく、低き石垣には線香の束、いくつと知らず列らびくゆるあり、折り重なり念佛する人の聲かまびすしく無禮なる物賣さへ數多入り込みて崇高嚴粛の感を削ぐこと一方ならず候ひし。人々の多くはその生前の人格を仰ぎ、痛ましき死を招ぎし意味を考へんともせず、直ちに神佛として禮拜せんとするにて、地下の英靈もこの迷信を誘ふて心苦しくおぼすらんと思ふにつけても、うたゝ禮拜の對象に饑えたる人といふ感の強く胸に響きて、ポーロと共に「吾汝等が識らずして敬ふ其ものを汝に示さん」と必ずや心ある人をして叫ばしむべしと思はれ候。此秋はまことに我が國民の深く其根を下して修養すべく特別の境遇を與へられたる樣覺え候本誌は此處に諸先輩の自覺の時てふ有益なる經驗談を掲て讀者諸姉の修養の友となるを得るを喜ぶものにて候。我等は肉體の糧を得るにだに終日の勞苦を拂はざるべからざるを思へば尊き靈の生活を餘り疎かに致すの恨あり候。（三二四）

定價

（郵税加算）	内地及朝鮮支那	外國
一部	金拾貳錢	金拾六錢
六部（半年分）	前金七拾貳錢	前金九十貳錢
十二部（一年分）	前金壹圓四十錢	前金壹圓七拾五錢

廣告料

一行（廿三字詰）	金廿五錢	一頁	金拾圓
四半頁	金三圓	内表紙	金拾貳圓
半頁	金五圓	外表紙	金拾八圓

猶ほ引續き御廣告の向へは特別大割引可仕候

摘要

▲本誌代金は總て前金にて御拂込み被下度候
▲郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候
▲御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候但手數料金壹錢御加へ被下度候
▲通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に願上候

大正元年九月三十日印刷
大正元年十月一日發行

編輯兼發行人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區丸山町四番地　相原一郎介
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所
發行所　東京市小石川區林町四十三番地　新人社
電話番町二五四四
振替貯金口座一四〇〇五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

主筆海老名彈正

新人

第十三卷第十號要目

▲乃木大將の死を論ず……社説
▲大都に於ける基督教……海老名彈正
▲精神界の新紀元……浮田和民
▲米國平和運動の現狀……原口竹次郎
▲我國の倫理と基督教……天野榮造
◉如何にして基督教を社會に徹底せしむべきか
金子卯吉　能勢嵬　岩佐琢藏　小山鼎浦　赤司繁太郎　津荷輔　中津親義　栗原基
中村正路　川澄明敏　杉山重義　武本喜代藏　藤井健治郎　村松吉太郎　山本邦之助　曾木銀次郎
▲人生詩人ブラウニング……帆足皆夢
▲寄せては返す波……秋郎生
▲最後の勝利……清水久男
▲馬可傳講義……海老名彈正
▲乃木大將の死と世論……時評

新人社發行

新女界 第三卷 合本

殘本僅十數部　定價金壹圓（送料共）

●社說　（安井哲子）

▲死ぬ迄働き續ける元氣▲無意識の感化▲個人の歷史▲奮鬪と慰安▲他人の喜びに對する同情▲趣味のいろ〳〵▲過つて改むるに憚る事勿れ▲懷かしい十年前の夏▲溫情▲勇氣▲犧牲の精神▲心の準備

●講壇　（海老名彈正）

▲現代婦人の缺陷▲永遠の生命▲恩惠の聲▲柔和の福音▲誤解せられたる基督▲女子の解放▲愛苦の眞義▲神の聖愛▲向上の動機▲基督の家庭▲基督敎の眞髓

●想苑

▲新らしき生活　谷津博士
▲現代女學生の惡傾向　小此木松子
▲禮儀の根本觀念　三谷民子
▲亞米利加だより　海老名一雄
▲かあやん　德富健次郎
▲現代小說雜誌　小山東助
▲渉筆叢話　谷澤直秀
▲獨逸見聞記　吉野作造
▲婦人解放の是非　富田信
▲佐久間大尉の手紙　德富健次郎

▲婦風問題　島田三郎
▲女子の敎育の標準　村田勤
▲婦人の活氣　小此木松子
▲伊香保より　野口精子
▲形式道德の無能力　村田勤
▲土耳古の話　小松武治
▲惠み多かりし二夏　三谷民子
▲夏の巴里　藤島武二
▲西班牙の夏　湯淺一郎
▲常樂の生活　二宮貞子
▲子女敎育に對するの母の務　海老名みや子
▲婦人と信仰　海老名彈正
▲「アンドリヤ、デルサート」を讀みて　三谷民子
▲無題錄　小此木まつ子
▲女子の高等敎育論　ウヲルデン博士
▲我國女子の將來　成瀨仁藏
▲婦人解放問題　內ヶ崎作三郎
▲男女問題の意義　安部磯雄
▲淨心錄　谷澤直秀
▲世界最大の美　富川經輝
▲文欄▲家庭▲雜俎▲衞生▲隨感▲其他種々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察、月、水、木、金午前、入院、診察應需

林、峰間、兩副長ハ目下當院ニ在勤、

電（本）八八八（病院用）八九八（私宅用）

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎海濱從停車場半里

電、チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、

院長診察、土曜日午後、入院、診察應需、

新女界第四巻第十號
大正元年十月一日發行
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

定價金拾貳錢

東京市小石川區林町四拾參番地
新人社
振替口座東京一四〇〇五